

はじめに

この履修の手引きは、2010年12月1日に設立された九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター（略称：QREC）が、2011年4月以降に提供する科目群の履修方法につき説明するために作成されたものである。

QRECは、本学卒業後に渡米し大成功をおさめたロバート・ファン氏の九州大学百周年寄付金を契機として、従来の九州大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）を発展的に改組・再構築し、新たに設立されたが、九州大学の全学部、全大学院の学生に対し、先進的かつ体系的なアントレプレナーシップ関連教育を提供することにより、九州大学から自立心、向上心、グローバル意識を有し、積極的に新しい価値創造にチャレンジする、世界に羽ばたくリーダー人材を輩出することを目的としている。従ってQRECの提供する科目は、ベンチャー企業の起業に限らず、大企業やアカデミア、NPO、あるいは公的組織等、社会の様々な分野において新たな価値実現に挑戦するリーダー人材育成を目的としている。

このQRECの提供する科目は大半が単位取得可能なものであり、学生自らが所属する学部、大学院で専攻する専門科目に対して、全学教育科目あるいは大学院共通教育として提供される。ただQRECの提供する科目は、その数が多くまた体系的に設計されているので、学生にあっては在学期間中に副専攻的な位置づけで履修することを期待している。この履修の手引きを参考にして多くの学生が積極的に受講することを期待している。

目 次

I. アントレプレナーシップとは	1
II. QREC におけるアントレプレナーシップ教育について	2
III. QREC の単位取得可能な教育プログラムについて	4
1. 教育プログラムの狙い	4
2. QREC 科目群の特色と体系	4
3. 修了証明書の発行	9
4. 履修モデル	11
5. 科目一覧及び教室	13
6. 履修登録方法	15
7. カリキュラム体系図	17
8. シラバス (QREC シラバス・QBS 提供科目)	19

I. アントレプレナーシップ(Entrepreneurship)とは

アントレプレナーシップ(entrepreneurship)は、近年、経営学・経済学・産業政策論・地域経済論等で以前にも増して世界的な注目度が高っているが、「アントレプレナーシップとは何か」、つまりアントレプレナーシップの定義については、多種多様存在しており、近年、アカデミックな場でも再考が進められつつある。

一方、日本においては「起業家精神」の訳を充てられることが多い。これはアントレプレナーシップを日本に導入した1980年代初頭はアメリカ東海岸のボストン周辺(ルート128周辺)と西海岸のサンフランシスコ近郊のシリコンバレーを中心とした、若い起業家が創設した新興企業群が半導体産業やPC、ソフトウェア等の産業の立ち上げをリードすると同時に産業の成長とともにそれらの新興企業が世界的企業へと成長を遂げており、それを日本への移植を検討したため、「新たな企業(あるいは事業)の立ち上げ」あるいはそれを支える「挑戦心」にスポットを当ててため「起業家精神」を当てたのであろう。

しかし、欧米におけるアントレプレナーシップは非常に広い意味を持っている。例えば、大学生活において、ある学生が新しいサークル活動を始めるアイデアを提案した時に、それを聞いた彼の仲間たちは「彼ならきっとやり遂げるよ。彼はアントレプレナーシップを持っているから」というような表現が日常的に使われている。参考までに、最近の欧米の代表的なアントレプレナーあるいはアントレプレナーシップの定義を2つ挙げておこう。

アントレプレナーシップ教育領域で最高の評価を受けているバブソン大学(Babson College)では、

“A way of thinking and acting that is opportunity obsessed, holistic in approach and leadership balanced”

(リーダーシップ・統合的なアプローチ・機会志向の組み合わせによってもたらされる思考・行動体系)

著名な経営学者ドラッカー(Drucker)は、

“the entrepreneur always searches for change, responds to it, and exploits it as an opportunity”

(アントレプレナーは、常に変化を探し求めて、それに反応し、チャンスとして機会として活用する)

としている。このように、欧米における「アントレプレナーシップ」の概念は、「機会志向」ではあるが、「新しい会社の立ち上げ」(≒起業)に留まるものではなく、より広い領域で適用されるものであり、かつ、「思考、心構え」(≒精神)で終わるものではなく必ず行動(action)が伴うものである。

II. QREC におけるアントレプレナーシップ教育について

九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター（以下、QREC）におけるアントレプレナーシップは前節で掲げたアントレプレナーシップの概念を踏襲し、QREC が目指すものが、単なる起業の促進ではなく、また、精神的なものに留まらないことを明確にするために「起業家教育」あるいは「起業家精神教育」ではなく「アントレプレナーシップ教育」を目標に掲げている。この目標に沿って QREC の使命、育成すべき人材像、特色を掲げている。特に、育成すべき人材像を確認してもらうことで、逆説的とはなるが QREC のアントレプレナーシップ教育の目標を理解できるであろう。

1. QREC の使命

QREC の使命は下記に掲げる 3 つである。

- 九州大学の学生に対し、先進的なアントレプレナーシップ関連教育を提供することにより、九州大学から自立心、向上心、グローバル意識を有し、積極的に新しい価値創造にチャレンジする、世界に羽ばたくリーダー人材を輩出する。
- 起業に限らず、大企業、アカデミア等を含む社会のあらゆる分野で、新たな価値創造に挑戦する人材育成を目指す。
- 地域におけるアントレプレナーシップ醸成のハブを確立する。

2. 育成すべき人材像

QREC の育成すべき人材像は下記の 5 つのタイプである。

- 自ら機会を発見・創造して、目標と道筋を構想する能力ある人材
- 新たな価値創造に対して積極的に挑戦する人材
- 個人として自立意識を持つ人材
- 社会や世界を幅広く俯瞰できる知識と能力を持つ人材（T 字型人材、グローバル人材）
- 知識を社会で活かす意欲と具体的価値を創造する能力ある人材（MOT 人材）

3. QREC の特色

- 学部/大学院一環の体系的アントレプレナーシップ教育

日本で初めて、学部生・大学生を対象とした一貫的、体系的アントレプレナーシップ教育の提供

- アントレプレナーシップ教育、MOT 教育の融合

所謂ベンチャー企業の創造等に限らず、広義のアントレプレナーシップ教育を採用し、リーダー人材を育成する。また MOT（技術経営）教育を積極導入し、両者の融合を目指す。

- グローバル性重視

世界主要大学等と連携し、最適・最良のリソースと交流機会を確保し、留学生の積極的参加、国際関係学部（構想中）との連携等による国際的な教育を提供する。

- 分野融合・多様性確保

工学研究院、システム情報科学研究院、農学研究院、芸術工学研究院、21世紀プログラム等、

学内各部局と相互連携した教育を企画・実施する。部局横断的なプロジェクトを企画し多様なバックグラウンドの学生の融合を図る。

○ **プラクティカル、产学連携**

国際的な学生ネットワークへの参加を慇懃する。また双方向型・参加型教育を提供する。

具体的なプロジェクトを基礎として、リアルな体験型教育を目指す。

産業界と積極的に連携することで人材や教育の場を確保し実践的教育を目指す。

○ **現代ニーズ対応**

新興国ビジネス、社会的起業等、現代の多様かつ新たな動きに対応した教育を行う。

III. QREC の単位取得可能な教育プログラムについて

この QREC 履修の手引きは、QREC の活動のうち教育プログラムに関して説明する目的のものである。このため、これ以降の節では教育プログラムについてのみの説明となる。

1. 教育プログラムの狙い（単位取得可能な科目+それ以外のプログラム）

前節までに示したように QREC が提供する教育プログラムは、起業に留まらず九州大学の学生の広義のアントレプレナーシップ涵養を目指すものである。ここで、アントレプレナーシップは行動を伴う概念であるから、当然、学生自らが自らの意思で「行動」を始める段階までが教育の対象となる。つまり、「アントレプレンーシップを持って考え、行動する (Entrepreneurial Thinking and Action : E.T.A)」、この学生の E.T.A を高めることが QREC 教育プログラムの目的となる。

E.T.A を高めるために QREC では多種多様なプログラムを網羅的、総合的な提供を目指しており、大きく 2 つのプログラムからなる。すなわち①九州大学の正規な科目として単位取得可能な QREC が提供あるいは推奨する科目群（以下、「QREC 科目群」という）、そして、②単位の取得は出来ないが学生に実践の場を提供するその他のプログラム群（以下、「その他プログラム」という。これには国内外のビジネス・インキュベータやベンチャー・キャピタルなどのアントレプレナーシップを推進する機関・企業と提携あるいは連携するイベントが中心となる）である。この「QREC 科目群」(①) 及び「その他プログラム」(②) はともに、QREC では将来的に段階的に拡充・強化していく計画である。

「QREC 科目群」及び「その他プログラム」は、ともに E.T.A. 教育には、重要な意味を持っているがこの履修の手引きでは、以下、QREC 科目群に関してのみ解説を行う。

2. QREC 科目群の特色と体系

QREC 科目群（九州大学の正規な科目として単位取得可能な QREC が提供あるいは推奨する科目）の特色は次の 3 つである

- ① 基礎から応用、実践まで、体系的かつ段階的に構成された日本初の総合的なアントレプレナーシップ教育プログラム。
- ② 九大全学横断的、かつ、学部 1 年生から修士課程、修士課程、専門職大学院課程までが履修可能。
- ③ 全 15 科目（今後拡大予定）で単位取得可能。一方で、半期に最大 2 科目を中途に、履修していくけば、学部 1 年から修士 2 年までの 6 年間で専門科目履修を妨げることなく、無理なく網羅的に QREC 科目の履修を可能としている。

以下、QREC 科目群の体系について説明する。

2-1. 科目の種類

- QREC 科目群は、「総合科目」、「高年次教養科目」、「大学院共通教育科目」、「経済学府産業マネジメント専攻（ビジネス・スクール；QBS）科目」（以下、QBS 科目）、「その他プログラム」からなる。
- 「総合科目」、「高年次教養科目」、「大学院共通教育科目」は各学部、各大学院における単位認定の適用を受け、つまり、各学部、各大学院の定めに従い卒業あるいは修了単位としてカウント可能である。
- 「QBS 科目」については、QBS の承認によって大学院に所属する学生のみが履修することが可能であるが、単位認定に関しては各学部、各大学院の定めあるいは手続きによる。
- 「その他プログラム」は、「総合科目」、「高年次教養科目」、「大学院共通教育科目」、「QBS 科目」以外の科目をいう。「その他プログラム」の単位認定の関してはその科目毎で各学部、各大学院での確認が必要になる。
- QRECにおいては、学部・専攻横断的あるいは学部学生、大学院学生（特に社会人学生）が共に科目履修することで多種多様な履修学生間の相互啓発による教育効果の向上を狙っている。このため、1つの QREC 科目に対して「総合科目」、「高年次教養科目」、「大学院共通教育科目」、一部の「QREC 科目」にうち複数の科目種類割り当てている。

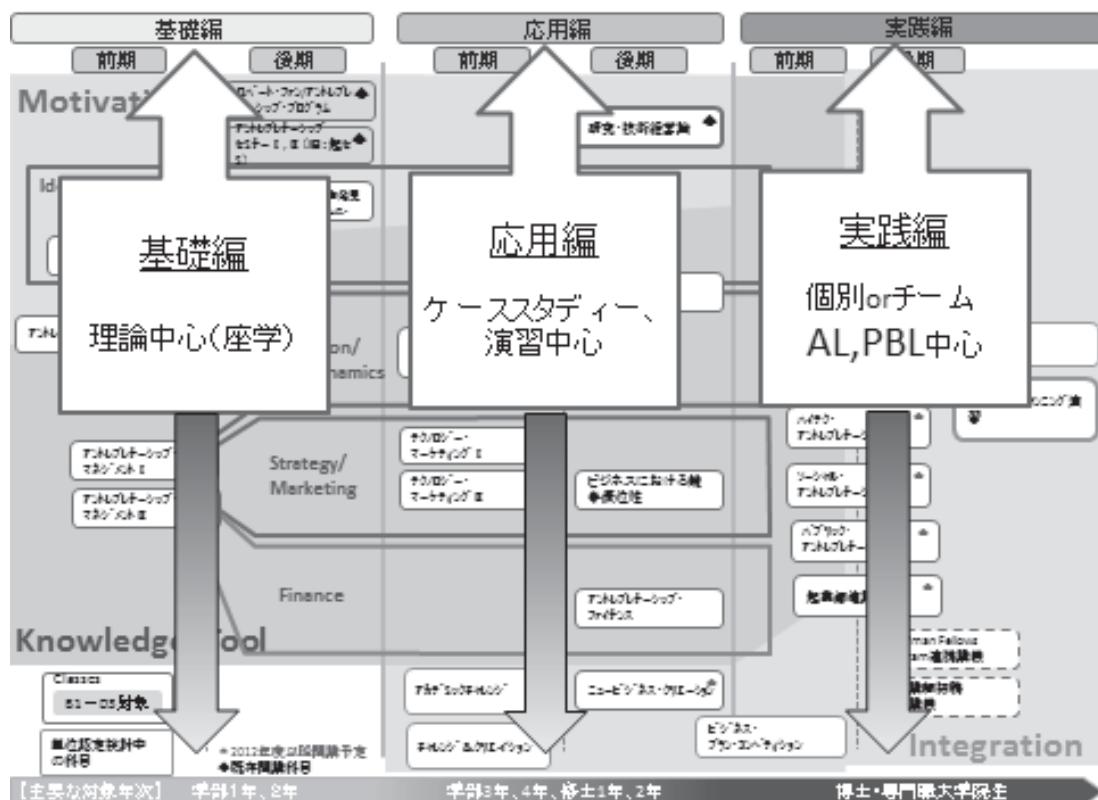
【例】QREC 科目「アントレプレナーシップ・マネジメント I」では、総合科目では「アントレプレナーシップ・マネジメント I」、大学院共通教育科目では「アントレプレナーシップ・マネジメント I（特論）」という科目名称を与えているが同一の科目である）

- 後述するが、QREC 科目群のうち、指定の科目及び科目数を履修した場合、希望者に対しては QREC の「修了証明書」を発行する。

2-2 QREC 科目の体系 (添付のカリキュラム体系図を参照)

QREC 科目は、次の 3 つの視点から設計、体系付けられている。①基礎から実践までの段階的教育プログラム、②問題意識の涵養（気付き）から統合的な能力の養成までを意識した教育プログラム、③アントレプレナーシップを網羅する 4 領域の科目群からなる教育プログラムの 3 つである。

① 基礎から実践までの段階的教育プログラム



図中、水平方向の左から右方向に。

「基礎」：座学形式で理論を中心の教育

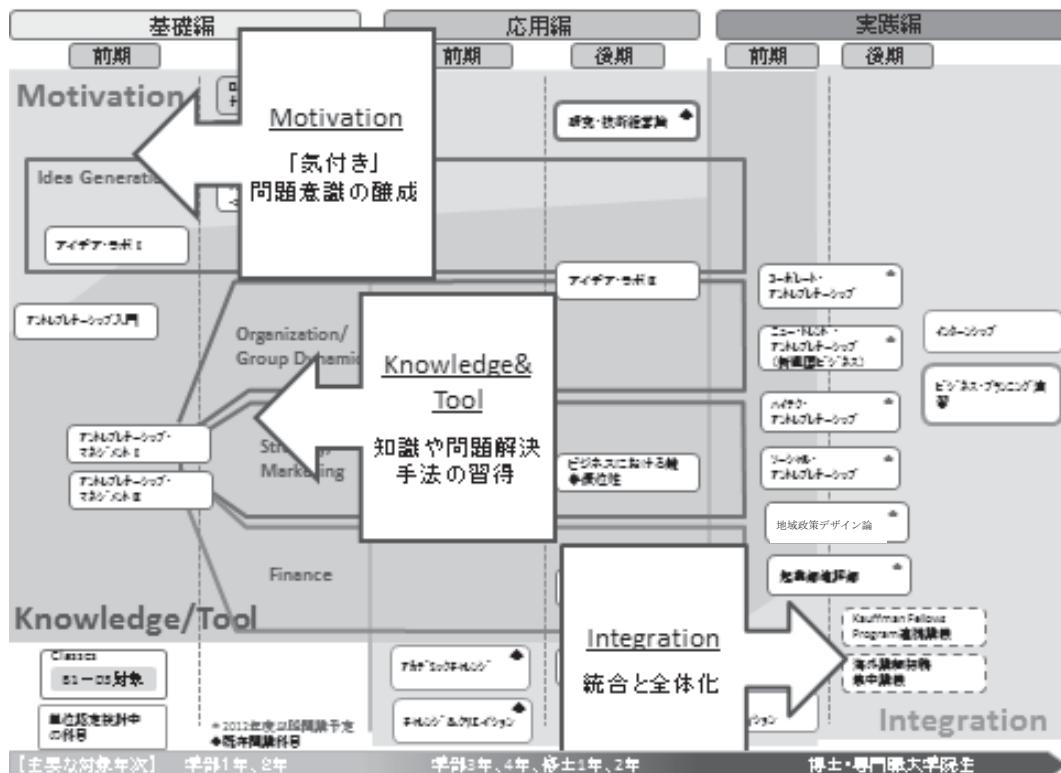
「応用」：ケーススタディー等を用い、グループディスカッション等の演習を含む教育。

「実践」：個別あるいはチーム単位で実際のプロジェクト参加を前提とした教育。

※一般に Action Learning (A.L) または Project-based Learning (PBL) と呼ばれる

「基礎」、「応用」、「実践」の主な対象はそれぞれ「学部 1、2 年生」、それを履修した「学部 3、4 年生及び修士」、その後の「博士課程あるいは専門職大学院生（社会人経験あり）」と年次あるいは履修段階に対応させ、設計している。

② 問題意識の涵養（気付き）から統合的な能力までを意識した教育プログラム

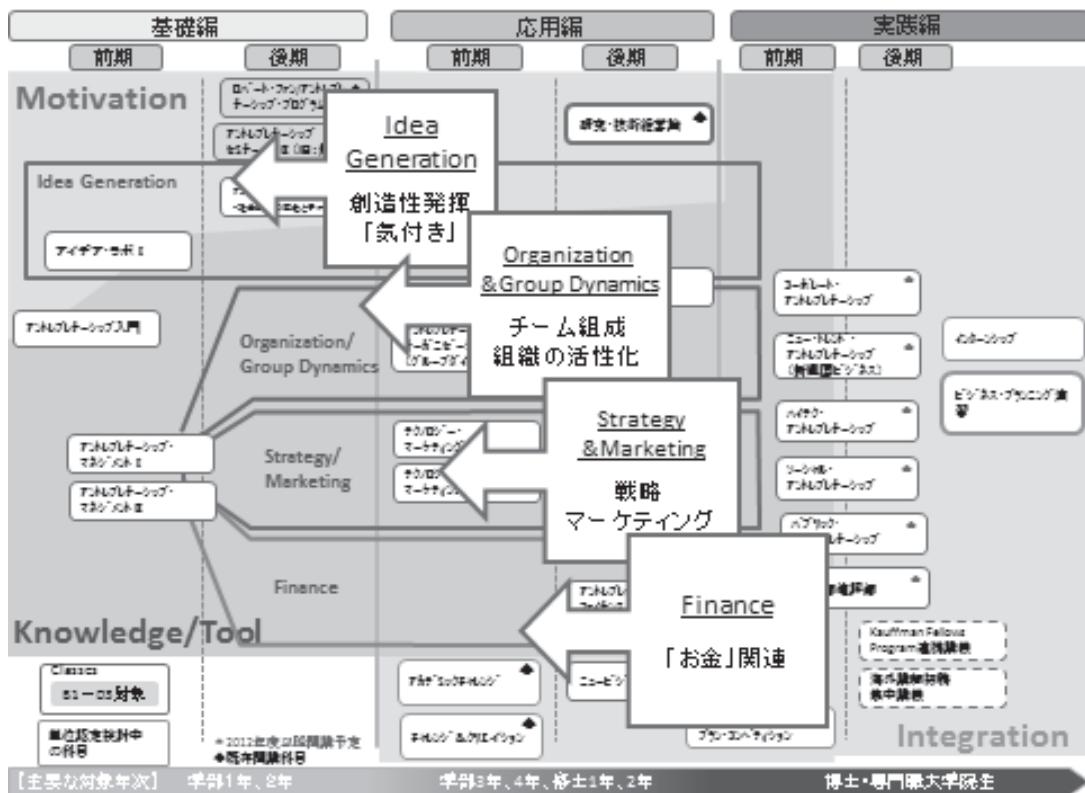


図中、左上から右下の斜め方向に

- 「Motivation」(グリーン) : 社会的な問題の発見・認知・認識な問題意識の醸成（気付き）、あるいは創造性の伸張を目指す。
- 「Knowledge & Tool」(ブルー) : 必要な基礎知識及び問題解決のために活用することができる手法の習得を目指す。
- 「Integration」(オレンジ) : 習得した知識を統合し総合化を行い、それぞれの課題に適した知識、ツールを活用して問題解決が図れる能力の習得を目指す。

※Integrationでは、ほぼ「実践」の段階に位置しており、履修者の最終的なキャリア・デザイン、例えば、大手企業の新製品開発を担当するエンジニア、社会的起業家、新産業創出に関わる政策立案者などの進路に従い、それに特化した形で実践的な問題解決能力の育成を目標としている。

③ アントレプレナーシップを網羅する4領域の科目群からなる教育プログラム



図中、縦方向に4つの四角で囲まれたものである。

「**Idea Generation**」：常識に捕らわれずに事実に向かうことで問題に「気付き」、発散的な思考法等を用いて創造性を發揮する類型。

「**Organization / Group Dynamics**」：プロジェクトを成功させるには参加メンバーの能力をチームとして発揮させる必要はある。特にE.T.Aでは1人から2人、3人へ。そこから5人、10人、30人、100人と短期間で組織を拡大させ、それを運営する必要がある。
※一般にチーム組成 (Team Building) と称される。

「**Strategy / Marketing**」：プロジェクト成功させるには採用すべき多様な戦略を検討し、その中から最適な戦略を採用する必要がある。そのためには顧客や競合相手、市場の動向を知る必要がある。

「**Finance**」：プロジェクト遂行のためには資金を調達する必要がある。組織の大きさやプロジェクトの進捗状況によって、最適な資金の集め方は異なる。この類型では必要なお金の集め方に関して学ぶ。

※4類型はそれぞれ独立して学習を行うが、最終的にはすべてが相互に密接に関連しており、例えば、市場分析を十分に行わなければ、社会の問題は発見できず、また、その問題を本当に解決するには、参加者・支援者を増やし組織化する必要がある。但し、組織化するためには資金の手当てが必要であるが、どのような潜在的需要に対して、どのような戦略で対処するか資金提供者に説得できなければお金を集めるることは出来ない。このようにE.T.Aでは上記の4類型を柔軟かつ適宜連動させて検討する必要がある。

3. 修了証明書の発行

QREC では、一定の QREC 科目を履修した場合に、学生からの発行希望があれば修了証明書 (Certification) を発行する。修了証明書は①QREC 修了証明書及び②QREC 修了証明書（上級）の 2 種類を準備している。それぞれの発行要件は下記に記すが、修了証明書発行は QREC の履修学生の一定の目標を提示し総合的な E.T.A. の習得目標を明らかにするとともに、QREC が掲げている「育成すべき人材像」の教育効果を図る指標とし、教育効果を適時確認しプログラム全体を見直す際の尺度とする。加えて、修了証明書取得者を中心としたネットワークを段階的に形成していくことによって、将来の QREC を中心とする産官学あるいは地域のアントレプレナーシップに関わるエコ・システム形成の中核としていく計画である。

○QREC 修了証明書 (Certification)

- QREC 修了証明書では、「基礎」から「応用」までを体系的に履修し、一般的な課題に対し、E.T.A. を発揮できる能力を有していることを証明するものである。
- 下記に QREC 修了証明書の取得に必要な単位数と履修必要科目を記す。

修了証明書必要科目

(種別)	(科目数)	(必要科目数)	(対象科目)	
必修科目	2	2	アントレプレナーシップ入門	ニュービジネスクリエーション
選択科目	14	5	アントレプレナーシップマネジメント I	アントレプレナーシップマネジメント II
			アイデアラボ I	アントレプレナーシップ機会発見
			アイデアラボ II	QREP
			アントレプレナーシップセミナー I	アントレプレナーシップセミナー II
			アントレプレナーシップ・オーガニゼーション	研究・技術経営論
			テクノロジーマーケティング I	テクノロジーマーケティング II
			Kauffman Fellows Program	海外講師招聘集中講義
演習科目	1	1	インターン・シップ	

○QREC 修了証明書【上級】(Certification : Advanced)

- QREC 修了証明書【上級】(Certification : Advanced) は、QREC 修了証明書 (Certification) を取得済あるいは取得者と同等の能力を認めたもので、社会的起業家、大手企業での新製品開発者など、各論において E.T.A.発揮し、チームあるいはプロジェクトのリーダーに相応しい能力を有していることを証明するものである。
- QREC 修了証明書 (Certification) を取得済みと同等と認めるのは、原則、3 年以上の社会人経験を有し、かつ、経営学修士号 (MBA) を取得済みかあるいは年度末までに取得見込みのある者とする。
- 下記に QREC 修了証明書【上級】の取得に必要な単位数と履修必要科目を記す。

修了証明書必要科目【上級】

(種別)	(科目数)	(必要科目数)	(対象科目)	
必修科目	1	1	起業価値評価	
選択科目	22	2	海外講師招聘集中講義 テクノロジーマーケティング I ビジネスにおける競争優位 コーポレート・アントレプレナーシップ ハイテク・アントレプレナーシップ 地域政策デザイン論	Kauffman Fellows Program テクノロジーマーケティング II アントレプレナーシップ・ファイナンス ニュートレンド・アントレプレナーシップ ソーシャル・アントレプレナーシップ
アフィリエート科目	(11)		【QBS科目】	
演習科目	1	1	ビジネスプランニング演習	

[24] [4]

4. 履修モデル

- 起業家に留まらず政策立案者、研究者あるいは大企業に勤務するものであってもアントレプレナーシップを持つ人材が求められている。あるいは狭義の起業だけをとってみても起業する時期は自らが決定でき、すなわち学生時代であっても、就職し退職まで勤めその後であっても全く構わない。そのようなキャリア・デザインをするか、あるいはその時々、どのようなキャリア・パスを選択するかは個人個人の意思決定に由るものとなる。

よって、QRECでは「育成すべき人材像」を掲げ、E.T.A.を発揮できる人材の教育を目標として掲げている。

- 履修者が希望する将来的なキャリア・パスが明確であれば、QREC修了証明書及び同【上級】を取得するよりも、将来展望に沿ったQREC科目を履修することは重要であろう。そこで、履修者が希望する将来のキャリア・パスに従って必要と予想される履修推奨科目、つまり、履修モデルを参考までに下記に示す。(履修に際しては、下記科目を履修する前提として「基礎」あるいは「応用」の科目を履修することが望ましいことは言うまでもない。

キャリア・パスのモデルと履修推奨科目

モデル名	(推奨数)	科目名	
企業のR&D担当者	(7)	アントレプレナーシップ・オーガニゼーション	テクノロジー・マーケティングⅠ
		テクノロジー・マーケティングⅡ	研究・技術経営論
		ビジネスにおける競争優位性	ハイテク・アントレプレナーシップ
		起業価値評価	
企業の新規事業担当者	(9)	アイデア・ラボⅠ	アントレプレナーシップ機会発見
		アントレプレナーシップ・オーガニゼーション	アイデア・ラボⅡ
		ビジネスにおける競争優位性	コーポレート・アントレプレナーシップ
		ニュートレンド・アントレプレナーシップ	起業価値評価
		ニュービジネスクリエーション	
大学の研究者(理系)	(5)	アントレプレナーシップ・オーガニゼーション	テクノロジー・マーケティングⅠ
		研究・技術経営論	テクノロジー・マーケティングⅡ
		ビジネスにおける競争優位性	
社会起業家	(5)	アイデア・ラボⅠ	アントレプレナーシップ機会発見
		アントレプレナーシップ・オーガニゼーション	アイデア・ラボⅡ
		ソーシャル・アントレプレナーシップ	
政策立案者	(8)	テクノロジー・マーケティングⅠ	テクノロジー・マーケティングⅡ
		アイデア・ラボⅡ	研究・技術経営論
		アントレプレナーシップ・ファイナンス	ニュートレンド・アントレプレナーシップ
		ソーシャル・アントレプレナーシップ	地域政策デザイン論

- 前ページのキャリア・パスの推奨モデルにおいて、例えば「アントレプレナーシップ・オーガニゼーション」はほとんどのモデルにおいて推奨されているが、この科目は組織の伸張に伴い、柔軟かつ漸次、組織運営の最適化するスキルを学ぶものである。大学あるいは社会的起業においても、効率的に「組織」を運営しなければならない状況は変わらない。いずれの組織においても、組織の潜在能力を最大限に引き出すことで初めて大きな成果を得ることができるのである。
- 同様に「ビジネスにおける競争優位性」に関しては、企業及び大学における3つのキャリア・パスにおいて推奨されている。「ビジネスにおける競争優位性」は、自分の有する競争優位性を、例えば特許、著作権あるいは短期の圧倒的シェア確保等の方法によってどのように維持するか、あるいは競合が現れた時にどのように対処すべきかを学ぶものであり、このスキルを習得することで研究あるいは新製品開発の成果をより長期間、競合相手に対して優位な位置を保持するが可能となる。

5. 科目一覧及び教室（その1）

※教室については変更になりますので、WEB上上のシラバスにてご確認ください。
 【URL】<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>（全学教育・大学院共通教育のシラバスにてご確認ください。）

段階	目的 (%)	領域 (%)	QREC科目名		メイン教室		概要	科目	単位	遠隔 （数）	有無	開講教室	備考
			教員名/連絡先	開講時期	伊都キャンパス (センター2号館 /2307教室)	前期/前半		伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	前期/前半				
基礎	Mot. K&T 60% Integ. 40%	I.G 50% O/G.D 20% S/M 20% F 10%	アントレプレナーシップ入門	伊都キャンパス (センター2号館 /2307教室)	前期/前半	伊都キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	水曜日、5.6限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	前期/前半	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	水曜日、5.6限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	水曜日、5.6限2コマ連続
基礎	Mot. K&T 30% Integ. 30%	I.G 5% O/G.D 45% S/M 45% F 5%	アントレプレナーシップ・マネジメント I	伊都キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	前期/集中講義 隔週 土曜日、1.2限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	土曜日、1.2限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	前期/集中講義 隔週 土曜日、1.2限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	前期/集中講義 隔週 土曜日、1.2限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	前期/集中講義 隔週 土曜日、1.2限2コマ連続
基礎	Mot. K&T 30% Integ. 30%	I.G 5% O/G.D 35% S/M 35% F 25%	アントレプレナーシップ・マネジメント II	伊都キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	実際の問題を履修者が議論した後、最適な解決方法は何かを検討する。(エンジニアリングセミナードミト I と相互補完関係にある)	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	実際の問題を履修者が議論した後、最適な解決方法は何かを検討する。(エンジニアリングセミナードミト I と相互補完関係にある)						
基礎	Mot. K&T 30% Integ. 30%	I.G 70% O/G.D 30% S/M 35% F 25%	アイデア・ラボ I	伊都キャンパス (センター2号館 /2307教室)	前期/集中講義 隔週 土曜日、1.2限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	前期/集中講義 隔週 土曜日、1.2限2コマ連続						
基礎	Mot. K&T 80% Integ. -	I.G 70% O/G.D 30% S/M -	ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム (QREP)	伊都キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。
基礎	Mot. K&T 70% Integ. -	I.G 70% O/G.D 30% S/M -	アントレプレナーシップ・プログラム (QREP)	伊都キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。	伊都 箱崎キャンパス (センター2号館 /2307教室)	米国シリコンバレーSVの起業家、NPO留学生、移民、ビジネススマ、研究者と直面対話、アントレプレーンシップの本質と個人の生き方を理解する。
基礎	Mot. K&T 90% Integ. -	I.G 70% O/G.D 30% S/M -	アントレプレナーシップセミナー I	伊都キャンパス (センター1号館 /1302教室)	社会の一線で活躍するゲスト講師招聘によるインカラティングによる講論、低年次からのキャリアデザイン支援	伊都 箱崎キャンパス (センター1号館 /1302教室)	社会の一線で活躍するゲスト講師招聘によるインカラティングによる講論、低年次からのキャリアデザイン支援	伊都 箱崎キャンパス (センター1号館 /1302教室)	社会の一線で活躍するゲスト講師招聘によるインカラティングによる講論、低年次からのキャリアデザイン支援	伊都 箱崎キャンパス (センター1号館 /1302教室)	社会の一線で活躍するゲスト講師招聘によるインカラティングによる講論、低年次からのキャリアデザイン支援	伊都 箱崎キャンパス (センター1号館 /1302教室)	社会の一線で活躍するゲスト講師招聘によるインカラティングによる講論、低年次からのキャリアデザイン支援
基礎	Mot. K&T 80% Integ. -	I.G 70% O/G.D 30% S/M -	アントレプレナーシップセミナー II	伊都キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	後期/集中講義(前半) 金曜日、5.6限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	後期/集中講義(後半) 金曜日、5.6限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	後期/集中講義(後半) 金曜日、5.6限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	後期/集中講義(後半) 金曜日、5.6限2コマ連続	伊都 箱崎キャンパス (創造ハビリオン /ゼミナール室)	後期/集中講義(後半) 金曜日、5.6限2コマ連続
基礎	Mot. K&T 60% Integ. -	I.G 80% O/G.D 10% S/M 10% F -	アントレプレナーシップ機会発見 ・社会環境の変化ヒューチャンス	伊都キャンパス (21世紀交流プラザ)	社会、経済、国際関係等々、マクロレベル環境の変化、農業問題、ネット化進展、少子化、雇用問題、新興国発展等を認識しそれによる社会課題、ニーズの変化を学び、機会発見のヒントを学ぶ	伊都 箱崎キャンパス (21世紀交流プラザ)	社会、経済、国際関係等々、マクロレベル環境の変化、農業問題、ネット化進展、少子化、雇用問題、新興国発展等を認識しそれによる社会課題、ニーズの変化を学び、機会発見のヒントを学ぶ	伊都 箱崎キャンパス (21世紀交流プラザ)	社会、経済、国際関係等々、マクロレベル環境の変化、農業問題、ネット化進展、少子化、雇用問題、新興国発展等を認識しそれによる社会課題、ニーズの変化を学び、機会発見のヒントを学ぶ	伊都 箱崎キャンパス (21世紀交流プラザ)	社会、経済、国際関係等々、マクロレベル環境の変化、農業問題、ネット化進展、少子化、雇用問題、新興国発展等を認識しそれによる社会課題、ニーズの変化を学び、機会発見のヒントを学ぶ	伊都 箱崎キャンパス (21世紀交流プラザ)	社会、経済、国際関係等々、マクロレベル環境の変化、農業問題、ネット化進展、少子化、雇用問題、新興国発展等を認識しそれによる社会課題、ニーズの変化を学び、機会発見のヒントを学ぶ

目的 : Mot : Motivation(気付き、問題発見)、K&T : Knowledge & Tool(問題解決等のための知識・ノウハウ学習)、Integ : Integration(知識・ノウハウの統合・全体化)
 領域 : IG : Idea Generation(アイデア創出)、O/G.D : Organization, Group Dynamics(チーム編成)、S/M : Strategy, Marketing(戦略、マーケティング)、F : Finance(ファイナンス)

※QREC科目名は、高年次教養科目、大学院共通教育科目において名称が異なる場合もあります。後述のシラバスにてご確認ください。

5. 科目一覧及び教室（その2）

※教室については変更になりますので、WEB上のシラバスにてご確認ください。
【URL】<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp> (全学教育・大学院共通教育のシラバスにてご確認ください。)

段階	目的 (%)	領域 (%)	教員名/連絡先	QREC科目名		メイン教室		概要		科目		単位 (数)	遠隔 有無	開講教室		備考	
				開講時期													
応用	Mot. 80% K&T 20% Integ. 0%	I.G 5% O/G.D 75% S/M 10% F -	アントレプレナーリング。 オーガニゼーション	箱崎キャンパス (創造)ビオン /セミナー室)	後期集中講義 隔週 土曜日、12限2コマ連続	管理の幅、階層性、水平分業など「組織」の基礎概念を事例を交えて学習し、いかに段階的に組織を立ち上げていかを習得する	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	2 無	伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫	-	-	-	-	-		
応用	Mot. 0% K&T 100% Integ. 0%	I.G 10% O/G.D 70% S/M 20% F 20%	テクノロジー・マーケティング I	箱崎キャンパス (創造)ビオン /セミナー室)	後期集中講義 隔週 土曜日、12限2コマ連続	技術系シードのマーケティングの演習を行う。MOT理論を学ぶ後、事例分析に取り組む下げる	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	2 無	伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫	-	-	-	-			
応用	Mot. 0% K&T 70% Integ. 30% S/M 70% F 10%	I.G 15% O/G.D 15% S/M 70% F 10%	テクノロジー・マーケティング II	箱崎キャンパス (創造)ビオン /セミナー室)	後期集中講義 隔週 土曜日、12限2コマ連続	上述Iに引き続き、マネジメントチームと用いて「新製品開発を隊から市場に製品開発のギャップを学ぶ」として、そこから市場に販売される	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	2 無	伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫	-	-	-	-			
応用	Mot. 50% K&T 50% Integ. -	I.G 50% O/G.D 30% S/M 20% F -	研究・技術経営論	箱崎キャンパス (21世紀交流プラザ)	後期集中講義(前半) 土曜日、定期開講	産官学各界の講師を招聘し、MOTの基礎を学ぶ。 産官学各界の講師を招聘し、MOTの基礎を学ぶ。 議論にどちらか一方で、研究や技術の社会的位置づけ、研究者、技術者のありかたを再考させる。	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	2 有	セントラル1号館 1308教室 伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫							
応用	Mot. K&T 40% Integ. 30% S/M 30% F -	I.G 70% O/G.D 30% S/M 20% F -	アイデア・ラボ II	伊都キャンパス (センター1号館 /1302教室)	後期集中講義(前半) 金曜日、4.5限2コマ連続	具体的なテーマ(貧困撲滅、地球環境保全、耕作放棄地低減、不法住居撲滅等)を解決策をグループ化して、研究や技術の社会的位置づけ、研究者、技術者のありかたを再考させる。	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	2 有	セントラル1号館 1302教室 伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫							
応用	Mot. K&T 50% Integ. 50% S/M 30% F -	I.G 50% O/G.D 30% S/M 20% F -	アントレプレナーリング。リーダーになるために :競争力ある研究者、技術者、リーダーになるために	伊都キャンパス (センター1号館 /1302教室)	後期集中講義(前半) 水曜日、5.6限2コマ連続	具体的なテーマ(貧困撲滅、地球環境保全、耕作放棄地低減、不法住居撲滅等)を解決策をグループ化して、研究や技術の社会的位置づけ、研究者、技術者のありかたを再考させる。	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	2 有	セントラル1号館 1302教室 伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫							
応用	Mot. K&T 0% Integ. 0%	I.G 5% O/G.D 5% S/M 10% F 80%	アントレプレナーリング・ファイナンス	箱崎キャンパス (創造)ビオン /セミナー室)	後期集中講義(前半) 土曜日	投資などの借入なのか、そのための事業面評価手法等の学びやお金の調達方法の習得を目指す	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	2 有	伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫	-	-	-	-	-		
応用	Mot. K&T 0% Integ. 60% S/M 40% F 10%	I.G 15% O/G.D 15% S/M 60% F 10%	ビジネスにおける競争優位性	博多駅 サテライキヤンパス	後期集中講義(前半) 土曜日	知的財産権、先行者利得等を駆使していくかに競争優位性を確保していくかを学ぶ	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	2 無	伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫	-	-	-	-	-		
応用	Mot. K&T 0% Integ. 60% S/M 40% F 10%	I.G 15% O/G.D 15% S/M 60% F 10%	地政政策デザイン論	博多駅 サテライキヤンパス	後期集中講義(前半) 月曜日、6.7限2コマ連続	アントレプレナーシップの観点より、いかに政策を立案すべきかを学ぶ	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	O 総合科目 - 高年次教養科目 ○ 大学院共通教育科目 QBS科目	4 有	伊都 箱崎 馬出 大橋 建築紫	-	-	-	-	-		
実践	Mot. K&T 20% Integ. 80%	I.G 15% O/G.D 15% S/M 60% F 10%	谷口博文、古川勝彦(産学連携センター)	谷口博文、古川勝彦(産学連携センター)	後期集中講義(前半) 土曜日、14:00~17:30	・社会人受講生をもじって講義形式 ・博多駅サテライキヤンパスを原則とするが、例外はJRバスシステムで確認すること。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

目的 : Mot : Motivation(気付き、問題発見)、K&T : Knowledge & Tool(問題解決等のための知識・ノウハウ学習)、Integ : Integration(知識・ノウハウの統合・全体化)
 領域 : IG : Idea Generation(アイデア創出)、O/G.D : Organization, Group Dynamics(チーム編成)、S/M : Strategy, Marketing(戦略、マーケティング)、F : Finance(ファイナンス)

※QREC科目名は、高年次教養科目、大学院共通教育科目において名称が異なる場合もあります。後述のシラバスにてご確認ください。

6.QREC 提供科目の履修について

QREC 科目は、「総合科目」、「高年次教養科目」、「大学院共通教育科目」、「QBS 科目」、「その他の科目」として提供される。よって、その科目毎で履修登録の方法が異なる。また、所属の学部・学府によっても異なる場合もあり、不明な場合は、各教務係あるいは QREC 事務室に確認のこと。

6-1 「総合科目」、「高年次教養科目」～ 主に学部生が対象

- 履修方法は、他の「総合科目」、「高年次教養科目」とは異なるので注意が必要。
- QREC 科目の「総合科目」、「高年次教養科目」は、全学教育課教務係すべて取りまとめて行う。このため所定の履修登録の書式を全学教育課教務係に提出する必要がある。
- 但し、所属学生係から全学教育課教務係に転送されるので、所属学生係に提出することも可能。
- 履修登録の書式、登録の時期、登録期間終了後の履修希望等、履修登録に関する詳細は別途、掲示されるので、全学教育課教務係または所属学生係に照会のこと。
- 単位取得を希望せず、講義の聴講を希望する場合は、各教科の担当教員にその旨をその都度申し出のこと。

【履修登録提出先】

- ・全学教育課教務係（伊都地区センターゾーン 1 号館 2 階）
- ・所属学生係

6-2 「大学院共通教育科目」～ 大学院院生

- 「大学院共通教育科目」の履修登録は、他の「大学院共通教育科目」の登録方法と同じく、各学生が直接ウェブから履修登録を行う必要がある。
- 単位取得を希望せず、講義の聴講を希望する場合は、各教科の担当教員にその旨をその都度申し出のこと。
- 登録期間終了後の登録手続きに関しては各教務係あるいは QREC 事務室に照会すること。

【履修登録ウェブサイト】

下記 URL より、履修登録のこと。

<http://rche.kyushu-u.ac.jp/~in-kyotsu/register2.html>

【照会先】

QREC 事務室（箱崎地区理系ゾーン：産学連携棟 I 3 階）：平日 10:00～17:00

電話： 092-642-4014 mailto:support@qrec.kyushu-u.ac.jp

web： <http://www.qrec.kyushu-u.ac.jp>

6-3 「QBS 科目」

経済学府産業マネジメント専攻（ビジネス・スクール：QBS）が提供する「QBS 科目」は専門職大学院、大学院生のみ履修可能。（学部生は不可）。加えて、科目毎に履修の人数制限があるため、履修希望者の中から QREC が選定を行う必要がある。

○経済学府産業マネジメント専攻（QBS）学生

- QBS の学生は、通常の QBS 科目と履修方法は全く同じ。ウェブより履修登録を行うこと。
- QBS の学生に関しては、履修人数の制限の適用を受けない。

○経済学府産業マネジメント専攻（QBS）以外の大学院生、専門職大学院生

- 原則は他専攻科目の履修手続きに同じであるが、人数制限があるので QREC が取りまとめを行う必要がある。この点だけが他専攻科目の履修手続きと異なる。（以下、手順を示す）。
- 履修登録の書式、登録の時期等、履修登録に関する詳細は QREC のウェブサイトを確認するか、QREC 事務室に紹介のこと。
- 「QBS 科目」は、人数の制限があるため、単位取得希望者以外の聽講は出来ない

【履修登録手順】

- ① 履修希望者は、まず指導教員へ他専攻科目履修に関する相談を行うこと。
- ② QREC 希望者は、QREC 事務室に「QBS 科目」の履修希望の届け出を行う。
- ③ 各「QBS 科目」毎に、QREC が制限数の学生を選定し該当の学生に「推薦状」を出状する。
- ④ 該当の学生は、各「QBS 科目」の担当教員へ聽講届を、所属の学費学生係に「他専攻履修届」をそれぞれ QREC の「推薦状」を添えて届け出る。

【照会・届出先】

QREC 事務室（箱崎地区理系ゾーン：産学連携棟 I 3 階）：平日 10:00～17:00

電話： 092-642-4014 mailto:support@qrec.kyushu-u.ac.jp
web： <http://www.qrec.kyushu-u.ac.jp>

※ 「QBS 科目」の履修希望はメールでも受け付ける。所定書式をメールで送信することになるが、基本的に履修希望科目名、所属学府、学年、氏名、学籍番号は明記のこと。

6-4. 「その他の科目」

「その他の科目」に関しては、各教務係あるいは QREC 事務室に個別に照会のこと。

【照会・届出先】

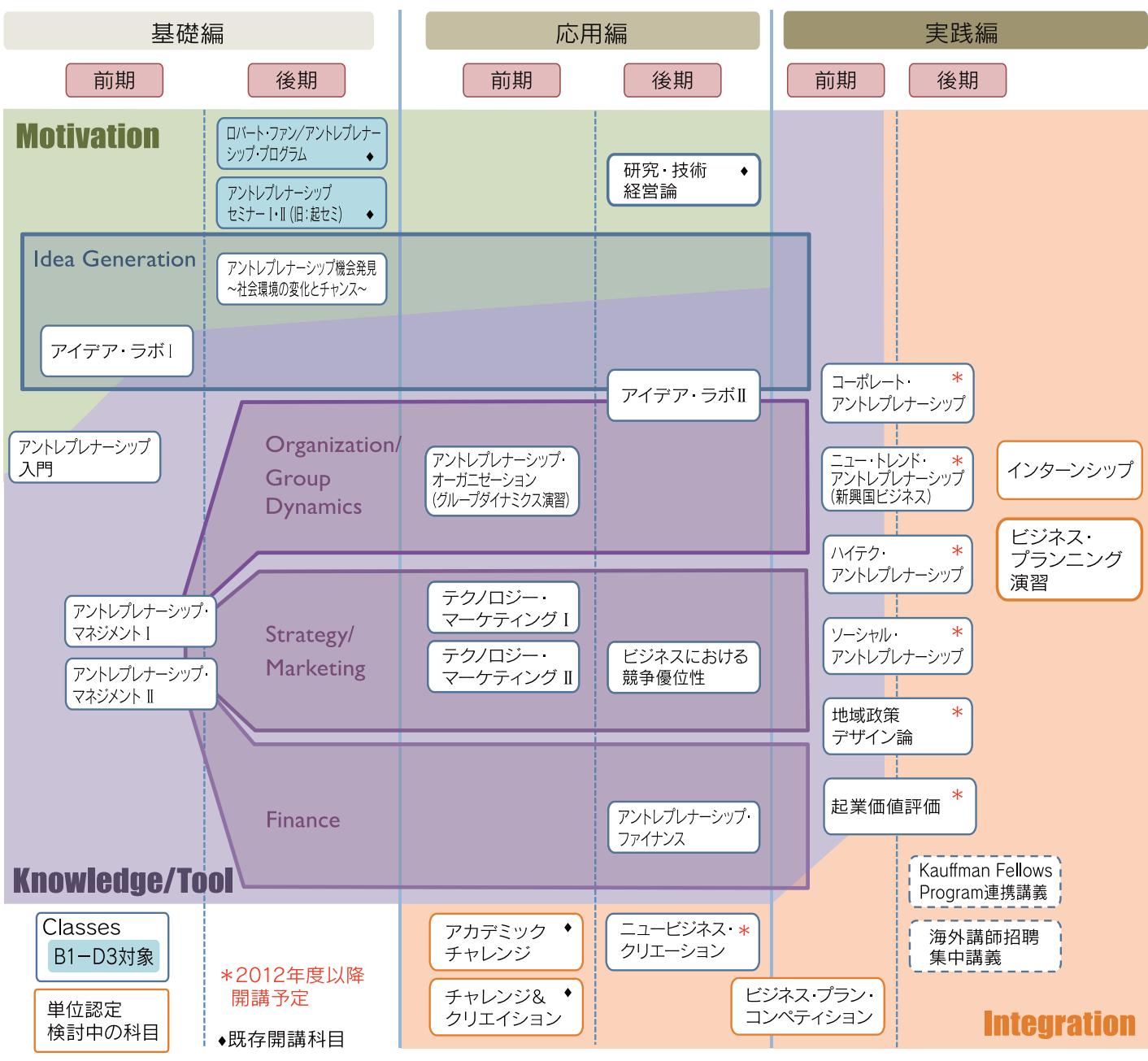
QREC 事務室（箱崎地区理系ゾーン：産学連携棟 I 3 階）：平日 10:00～17:00

電話： 092-642-4014 mailto:support@qrec.kyushu-u.ac.jp
web： <http://www.qrec.kyushu-u.ac.jp>

7. カリキュラム体系図

Curriculum

(2011年3月現在の計画)



このカリキュラムは、全学の学生が副専攻的な位置付けて履修出来ます。上図のように基礎から実践へと段階的にアントレプレナーシップが学習できるようにデザインしてあります。最初は、周囲の「問題」や自らの「志向」に気付くことが大切です。次に問題解決のためには「アイデアを創出」(Idea Generation)する創造性を鍛え、「市場」を知り「戦略」を考え(Strategy/Markting)、「お金」(Finance)集め、仲間を募り「組織的な活動」(Organization/Group Dynamics)に拡大させる必要があります。このために必要な知識やノウハウ(Knowledge/Tool)を学び、それを統合(Integration)し実践できるまでの科目を用意してあります。

8. シラバス

QREC 提供科目

科 目 名			
アントレプレナーシップ入門		全学教育科目	アントレプレナーシップ入門
(単位数)	2 単位	高年次教養科目	
		大学院共通教育科目	アントレプレナーシップ入門(特論)
		QBS科目	
授業方式	2コマ連続講義。座学、DVD教材、ゲスト講師の招聘を組合せ、起業家精神の概念を学習する。講義においてはグループワークあるいはワークショップを行う。		
開講学期及び開講地区等	前期:前半集中(前半:水曜5,6限目)、伊都キャンパスをメインとした遠隔講義		
キーワード	アントレプレナーシップ、気付き		
履修条件	なし		
授業の目的	アントレプレナーシップの基礎を全般的に学ぶ		
到達目標	「アントレプレナーシップ」とは何かを考え、「アントレプレナーシップ」をもって行動することとはどのようなことかを学ぶ。		
授業計画	<p>前期毎週水曜日5,6時限目毎回2コマ連続開講(2コマ×8回:前期前半のみ開講) 講義はQRECの五十嵐伸吾及び高田仁、2名で担当する。</p> <p>アントレプレナーシップの基礎概念として下記の項目について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> なぜアントレプレナーシップの定義 アントレプレナーシップの必要性 アントレプレナーシップとキャリアデザイン アントレプレナーシップのプロセス 起業価値の発見・創造 アイデア創出 アントレプレナーシップの実際 チーム立ち上げ 		
成績評価の方法	出席を重視する。出席40%。講義評価60%(うち五十嵐30%、高田30%)		
教科書・参考書	「20歳のときに知っておきたかったこと」(ティナ・シーリグ、阪急コミュニケーションズ)		
担当教官(所属)	五十嵐 伸吾(ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター) TEL: 092-642-4011 Mailto: igarashi@qrec.kyushu-u.ac.jp		
学習相談	授業前後に行う。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。		

科 目 名			
アントレプレナーシップ・マネジメント I		全学教育科目	アントレプレナーシップ・マネジメント I
(単位数)	2 単位	高年次教養科目	
		大学院共通教育科目	アントレプレナーシップ・マネジメント I (特論)
		QBS科目	
授業方式	毎回、基本的な概念の提示とともにケースメソッドに基づく討議を行う。グループ活動に基づく、事前のケース分析などの予習を踏まえ、授業中は全体の議論で理解を深めていく。		
開講学期及び開講地区等	前期(土曜日1,2限目、隔週、2コマ連続)、箱崎キャンパス(創造パビリオン)		
キーワード	アントレプレナーシップ、マーケティング、製品開発、イノベーション、組織、戦略		
履修条件	なし		
授業の目的	アントレプレナーシップの視点から、マーケティング・製品開発・組織論・戦略論を学ぶ。		
到達目標	アントレプレナーの目線から、基本的な経営学の概念を習得すること。		
授業計画	<p>本講義は毎回、基本概念の提示からスタートし(1コマ)、ケース討議(1コマ)を用い、さらに振り返りながらの関連概念を討議しながら学ぶ(1コマ)、3つのセッションから構成されている。</p> <p>1日目 経営学入門とアントレプレナーシップ、ケース討議 2日目 事業機会:アントレプレナーシップとマーケティング、ケース討議 3日目 問題解決計画:アントレプレナーシップと製品サービス開発、ケース討議 4日目 組織を創る:アントレプレナーシップと経営組織、ケース討議 5日目 ドメインと優位性の確立:アントレプレナーシップと経営戦略、ケース討議</p>		
成績評価の方法	積極的な質疑・議論への参加を重視し、レポート等も用い、学習の進捗状況等を総合的に評価する。		
教科書・参考書	参考テキスト『アントレプレナーシップ』(ウィリアム・バイグレイブ+アンドリュー・ザカラキス、日経BP社)		
担当教官(所属)	山田仁一郎(大阪市立大学) TEL:092-642-4014(QREC事務室) Mailto:yamada@bus.osaka-cu.ac.jp		
学習相談			

科 目 名					
アントレプレナーシップ・マネジメント II (単位数)	全学教育科目	アントレプレナーシップ・マネジメント II			
	高年次教養科目				
	大学院共通教育科目	アントレプレナーシップ・マネジメント II (特論)			
	QBS科目				
授業方式	講義時間の前半は、PowerPointを使った講義を行い、後半は講義内容に関連するビデオを視聴する。毎回必ずコメントや質問を書いてもらい、次回に解答を提示する。				
開講学期及び開講地区等	前期：集中講義（隔週：土曜日1,2限目）、箱崎キャンパス（創造パビリオン）				
キーワード	起業の現実 ベンチャー型の起業 事業コンセプト ビジネスマネジメント				
履修条件	なし				
授業の目的	日本そして九州における個人起業の現実を知った上で、ベンチャー型の起業を理解する。				
到達目標	本講義の中心的なテーマであるベンチャー型の起業を正しく理解している状態。				
授業計画	<p>日本は先進国で最も個人起業がやりにくい社会・経済条件を備えている。 このため、ベンチャーの本家、米国では当たり前になった起業モードが日本ではなかなか根付かない。</p> <p>では、日本社会にふさわしい起業のあり方はどのようなものか？ そしてとくに九大卒業生は、人生においてどのように起業と関わって行くべきなのか？</p> <p>本講義では、日本そしてさらに条件が悪い九州で起業をすることの現実を、私自身の起業経験も踏まえて受講生にお伝えしたい。</p>				
成績評価の方法	出席点・コメントや質問での貢献度・定期試験の点数を総合的に評価する。				
教科書・参考書	授業中に適宜、提示する。				
担当教官(所属)	古田 龍助(熊本学園大学) TEL:092-642-4014 (QREC事務室) Mailto:furuta@kumagaku.ac.jp				
学習相談	メールにて対応。				

科 目 名			
アイデア・ラボ I	全学教育科目	アイデア・ラボ I	
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目	アイデア・ラボ I (特論)	
	(単位数) 2 単位	QBS科目	
授業方式	2コマ連続講義。身近な具体的な課題を提示し、それに対する観察力を高め、グループ演習を通じて、発散・収束・選択・実行・評価のルーチンを繰り返す演習を行う。講義の2回程度は外部講師を招聘し、より現実的な課題に取り組む		
開講学期及び開講地区等	前期:集中(後半:水曜5,6限目)、伊都キャンパスをメインとした遠隔講義		
キーワード	アントレプレナーシップ、発想力、創造力		
履修条件	「アントレプレナーシップ入門」あるいは「同(特論)」が原則履修済であること。		
授業の目的	アイデア創出力の養成を目指す。合わせてチーム力を極大化するスキムを習得す。		
到達目標	発散的思考法・収束的技法を習得する。特に、常識にとらわれない観察力、発想力を磨く		
授業計画	<p>前期毎週水曜日日5,6時限目毎回2コマ連続開講(2コマ×8回:前期後半のみ開講)</p> <p>たくさんのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初の段階で数多くのアイデアが創出できなければ、期待する成果は得られないかも知れない。本講義では身近な材料を用いながら、その使用法、活用法をいかに短時間で多くのアイデアを創出するかの演習を行う。</p> <p>第1回 ガイダンス/チーム編成 第2回 問題解決法:発散法と集約法(第1回と同日開講) 第3回目～16回:アイデア創出演習(2コマ×7回)</p>		
成績評価の方法	出席を重視する。出席40%。講義への貢献30%、最終レポート40%		
教科書・参考書	「20歳のときに知っておきたかったこと」(ティナ・シーリグ、阪急コミュニケーションズ)		
担当教官(所属)	五十嵐 伸吾(ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター) TEL:092-642-4011 Mailto: igarashi@qrec.kyushu-u.ac.jp		
学習相談	授業前後に行う。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。		

科 目 名			
ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム(QREP) (単位数)	全学教育科目	ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム(QREP)	
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目	ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム(QREP)	
	QBS科目		
授業方式	事前講義2回、米国現地講義1週間、総括講義1回午後		
開講学期及び開講地区等	後期、事前講義:1~2月(箱崎)、現地講義:3月初旬(米国シリコンバレー)、総括講義:3月中旬(福岡天神)		
キーワード	アントレプレナーシップ、多様性、グローバル、個人		
履修条件	なし		
授業の目的	本学学生に対し、起業家精神、多様性、国際的ビジネスのメカ、米国カリフォルニア州のシリコンバレーにおいて、ベンチャー企業や外資系大企業、大学、弁護士事務所、さらにはNPO等、現地の多様な状況において活躍する経営者、エンジニア、研究者、あるいは学生等の考え方や生き方に親しく接する(ロールモデルに触れる)機会、および講義を聴く機会を提供して、起業家精神(チャレンジ精神、自立意識、個性の発揮等)やグローバル思考の重要性を認識させるとともに、自らの生き方、考え方、進路等を真剣に考えるきっかけを与えることを目的とする。		
到達目標	以下の効果実現を目指す ・起業家精神醸成(自立した個人・個性の確立、チャレンジ精神の涵養) ・国際的意識向上(多様性の認識) ・積極性、主体性向上 ・大学で学び研究する意味・意義の理解と学習意欲の向上 ・起業や技術マネジメントに関する知識・実情理解 ・世界トップ水準のビジネス認識		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・事前講義:2012年1月中～2月下旬(オリエンテーションと事前講義:2日間程度) ・現地(シリコンバレー)プログラム:3月上旬の1週間 実カリキュラムは日曜午後～金曜まで実質5.5日間 ・総括講義:2012年3月下旬(半日) 総合計で50時間程度予定(事前6時間、現地40時間強、総括3時間程度)		
成績評価の方法	出席30%、授業への参加態度(積極性等)30%、レポート(最終講義終了後提出)20%、総括講義でのプレゼンテーション20%		
教科書・参考書	シリコンバレー～なぜ変わり続けるのか～上/下(日本経済新聞社) ベンチャーズインフラ(NTT出版)、ウェブ時代を行く(筑摩書房)等、当授業履修者には別途通知する。		
担当教官(所属)	谷川 徹(産学連携センター/QREC) TEL:092-642-4360 mailto: tanigawa@astec.kyushu-u.ac.jp		
学習相談	隨時受け付ける		

科 目 名					
アントレプレナーシップ・セミナー I (単位数)	全学教育科目	アントレプレナーシップ・セミナー I			
	高年次教養科目				
	大学院共通教育科目	アントレプレナーシップ・セミナー I (特論)			
	QBS科目				
授業方式	2コマ連続講義。社会の一線で活躍する講師を招聘し、現実に即した事例に基づき招聘講師から講義、直接的対話及び演習等を組み合わせ多角的な視座を与える。				
開講学期及び開講地区等	後期集中(前半:金曜5,6限目)、伊都キャンパスをメインとした遠隔講義				
キーワード	アントレプレナーシップ、キャリアデザイン				
履修条件	なし				
授業の目的	アントレプレナーシップを考える前提として「働く」との意義や目的とは何か、いかに自らのキャリアを設計していくかをその理論、アプローチを含めて習得する。				
到達目標	キャリア・アンカーなどキャリアに関する基礎理論の習得。そのための、自分の欲求をしたためのアプローチを学習し、学生個々が自らのキャリア形成の上での優先順位を決める				
授業計画	<p>後期毎週金曜日5,6時限目 每回2コマ連続開講(2コマ×8回:後期前半で終了)</p> <p>第1回 2コマ連続: ガイダンス、キャリアデザインの必要性(五十嵐) 第2回～第8回 2コマ連続講義 各回 外部講師を招聘(現状未定。確定したい告知する)、外部講師による講義。 履修者参加による演習。それを受けた講師によるフィードバック。 担当教員(五十嵐)による要点整理の形で、講義を進める。</p>				
成績評価の方法	出席を重視する。出席40%。講義への貢献30%、最終レポート40%				
教科書・参考書	「キャリアデザイン」(田路則子、月岡亮著;ファーストプレス)				
担当教官(所属)	五十嵐 伸吾(ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター) TEL:092-642-4011		mailto:igarashi@qrec.kyushu-u.ac.jp		
学習相談	授業前後に行う。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。				

科 目 名					
アントレプレナーシップ・セミナーⅡ (単位数)	全学教育科目	アントレプレナーシップ・セミナーⅡ			
	高年次教養科目				
	大学院共通教育科目	アントレプレナーシップ・セミナーⅡ(特論)			
	QBS科目				
授業方式	2コマ連続講義。社会の一線で活躍する講師を招聘するオムニバス式の講座。現実に即した事例に基づき招聘講師から講義、直接的対話及び演習等を組み合わせ多角的な視座を与える。				
開講学期及び開講地区等	後期集中(後半:金曜5,6限目):箱崎キャンパス				
キーワード	アントレプレナーシップ、キャリア・デザイン、キャリア・アンカー				
履修条件	'アントレプレナーシップ・セミナーⅠ'あるいは「同(特論)」が原則履修済				
授業の目的	アントレプレナーシップを考える前提として、困難に直面したとき、どのようなアプローチと行動をとることで、それを解決したかを学ぶ				
到達目標	自らの人生・キャリアの転機を認識し、代替案と自分の中での優先順位を増えたうえでの採用すべき選択を行う。				
授業計画	後期毎週金曜日5,6時限目 每回2コマ連続開講(2コマ×8回:後期後半のみ開講) 第1回 2コマ連続: ガイダンス、キャリアデザインの必要性(五十嵐) 第2回～第8回 2コマ連続講義 各回 外部講師を招聘(現状未定。確定したい告知する) 外部講師による講義。履修者参加による演習。 それを受けた講師によるフィードバック。 担当教員(五十嵐)による要点整理の形で、講義を進める。				
成績評価の方法	出席を重視する。出席40%。講義への貢献30%、最終レポート40%				
教科書・参考書	「キャリアデザイン」(田路則子、月岡亮著;ファーストプレス)				
担当教官(所属)	五十嵐 伸吾(ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター) TEL:092-642-4011 mailto: igarashi@qrec.kyushu-u.ac.jp				
学習相談	授業前後に行う。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。				

科 目 名				
アントレプレナーシップ・オーガニゼーション		全学教育科目	アントレプレナーシップ・オーガニゼーション	
		高年次教養科目		
		大学院共通教育科目	アントレプレナーシップ・オーガニゼーション(特論)	
(単位数)	2 単位	QBS科目		
授業方式	各授業回でのテーマに沿う形で指定の教科書、資料やケース(事例集)を予め読んで授業に出席し、討論に参加すること。またケース教材としてはハーバード大学ビジネススクールのケースを使用した事例研究とその事例から抽出できる理論面の検討をクラスで行います。			
開講学期及び開講地区等	後期(土曜日1,2限目連続隔週講義)、箱崎			
キーワード	アントレプレナーシップ、チーム力			
履修条件	アントレプレナーシップ・マネジメント I 及び II を履修済であることが望ましい			
授業の目的	Team Building理論の習得			
到達目標	組織行動論の分野におけるTeam Building理論の習得を通して受講生の自己管理や組織管理に関する知識(理論)とスキルの習得			
授業計画	授業回数	テーマ / キーワード /	Reading Assignment	クラス演習、クイズ
	1~2回目	イントロダクション: アントレプレナーと組織行動学 優秀な組織とは?	第 1 章	討論 (必要があれば、DVD を使用)
	3~4回目	個人行動の原理 パーソナリティーと個人差 (価値観の変化) ケース ①	第 2 章と第 3 章 ケース①	グループ課題① クイズ: ケース①
	5~6回目	モチベーションとゴール: 動機づけ モチベーションと報償: 動機応用 ゲストスピーカー1: 起業家 A	第 4 章 授業配布資料	グループ課題②
	7~8回目	個人の意思決定 ケース②	第 6 章と付属資料 ケース②	グループ課題③ クイズ: ケース②
	9~10回目	集団行動、チームダイナミズム コミュニケーション ケース③	第 7 章、第 8 章 と第 9 章	クイズ: ケース③
	11~12回目	リーダーシップと信頼、政治 ゲストスピーカー2: ベンチャーエンタrep; 起業家 B	第 10 章 第 11 章 第 12 章 授業配布資料	グループ課題④
	13~14回目	組織構造の基礎 組織文化 成功する組織づくりのために ケース④	第 13 章 第 14 章 第 15 章	グループ課題⑤ クイズ: ケース④
	15~16回目	Final Case 分析		授業中の試験
成績評価の方法	・クイズ計4回: 1回10点満点(計40点) ・日常点(クラス討論参加度): 20点 ・Final Case 分析: 50点		・グループ課題計5回: 1回10点満点(計50点) ・その他(出欠): 15点 ・総合: 165点満点	
教科書・参考書	「組織行動のマネジメント」Stephen P. Robbins(高木晴夫訳)ダイヤモンド社(2009年)			
担当教官(所属)	黒木正樹(立命館大学) TEL:077-561-4838 mailto:mkt07847@ba.ritsumei.ac.jp			
学習相談	授業日の授業前2~3時間、または個別のアポイントメント			

科 目 名					
アントレプレナーシップ機会発見 (単位数)	全学教育科目	アントレプレナーシップ機会発見-社会環境の変化とチャンス-			
	高年次教養科目				
	大学院共通教育科目	アントレプレナーシップ機会発見(特論)			
	QBS科目				
授業方式	<p>・授業は2コマ連続講義とする。</p> <p>・毎回の講義では、まず社会の様々な分野の第一線で活躍する専門の外部講師による講義を行う。その後あらかじめ提示した課題につきグループ討議を行い、最後に討議内容につき代表数人より発表する形式で行う。</p>				
開講学期及び開講地区等	後期:前半(10~11月8週間)、箱崎キャンパスをメインとした遠隔講義				
キーワード	Change ,Opportunity, Flexibility, Global,Needs,				
履修条件	なし				
授業の目的	現代社会の様々な分野の課題や変化の状況を学び、そこから発生するニーズを把握して新たな価値を実現する思考法を学ぶ。				
到達目標	社会の大きな状況変化の観察によって新たな課題を発見する力や、変化の中から新たな価値を創造する機会(ビジネスチャンス)を発見する力を養成する				
授業計画	<p>本授業の趣旨、概要は以下の通り:</p> <p>ベンチャーなど新しいビジネスや事業を興すきっかけは、社会に存在する大きな課題やニーズの存在が前提となる。</p> <p>課題やニーズをいち早く発見し、その解決とニーズを満たすビジネスや事業の提案を誰よりも早く行なうことが、アントレプレナーの役割である。課題やニーズは、社会や経済の大きな構造変化が起こるとき数多く発生する。この講義では、技術革新、情報化進展、産業競争力変化、南北問題、地球温暖化、新興国の台頭等、様々なグローバル環境の構造変化を知り、それによる社会の状況、課題やニーズがどう変化するかを学ぶ。</p> <p>第一回は10月5日(水)。全八回の各回のテーマは確定次第告知する。</p> <p>現状検討中の各回テーマは、農業自由化問題、途上国問題(南北問題)、地球温暖化問題、雇用問題、情報化問題、資源問題、金融自由化問題、食の安全問題など。</p>				
成績評価の方法	出席40%、授業での積極性30%、レポート30%				
教科書・参考書	特に指定しない。毎回講義の際に資料を配布する。				
担当教官(所属)	谷川 徹(産学連携センター/QREC) TEL:092-642-4360 Mailto: tanigawa@astec.kyushu-u.ac.jp				
学習相談	隨時受け付ける。				

科 目 名			
テクノロジー・マーケティング I (単位数)	全学教育科目	テクノロジー・マーケティング I	
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目	テクノロジー・マーケティング I(特論)	
	QBS科目		
授業方式	講義とディスカッション、発表などを並行して行う		
開講学期及び開講地区等	後期(土曜日1,2限目2限連続、隔週講義)、箱崎キャンパス(創造パビリオン)		
キーワード	イノベーション、技術戦略、製品戦略		
履修条件	なし		
授業の目的	テクノロジー・マネジメントという観点から企業の競争力の転換を分析し、技術から収益を上げるための仕組みとマネジメントの諸原理、手法などについて学習する。		
到達目標	イノベーションや企業の競争力の変化などの諸現象をテクノロジー・マーケティングという観点から分析、解釈できること。		
授業計画	1. イノベーションの定義と本質 2. イノベーションの発生、普及、進化 3. イノベーションの類型と企業の競争力(1) 4. イノベーションの類型と企業の競争力(2) 5. 技術開発戦略のマネジメント 6. 新製品開発マネジメント①:組織と戦略 7. 新製品開発マネジメント②:情報技術の活用 8. 製品アーキテクチャベースの戦略 9. 企業の境界のマネジメント 10. 日本企業の競争力変化とナショナル・イノベーションシステム 11. 事業化のためのテクノロジー・マーケティングの手法 12. ケーススタディ①:ハイテク産業におけるテクノロジー・マーケティング 13. ケーススタディ②:ライフサイクルとテクノロジー・マーケティング 14. ケーススタディ③:国際化とテクノロジー・マーケティング 15. 予備(試験日)		
成績評価の方法	出席、発表、レポート、試験により総合的に評価する。		
教科書・参考書	近能・高井『コアテキスト イノベーション・マネジメント』新世社。 ジェフリー・ムーア(2002)『キャズム』翔泳社。他		
担当教官(所属)	具 承桓(京都産業大学) TEL:075-705-1787 mailto:kush0405@gmail.com		
学習相談			

科 目 名					
テクノロジー・マーケティング II (単位数)	全学教育科目	テクノロジー・マーケティング II			
	高年次教養科目				
	大学院共通教育科目	テクノロジー・マーケティング II(特論)			
	QBS科目				
授業方式	講義はマネジメント・ゲームを使った演習を行う。このため、本講義は集中講義とする。 履修者を4~5チームで分け、各チームが一つの会社として実際に意思決定することで体験的にマーケティングを学ぶ				
開講学期及び開講地区等	後期集中(土曜日非定期開講):箱崎キャンパス				
キーワード	アントレプレナーシップ、製品最適設計、マーケティング演習				
履修条件	「テクノロジー・マーケティング I」、または「同(特論)」が原則履修済。				
授業の目的	理論としての技術経営論をマーケットで適用し、実践力を養う。				
到達目標	マネジメント・ゲームで製品開発を体験し、どのような製品が受け入れられるのかを学ぶ				
授業計画	<p>高性能な製品が売れるとは限らない。市場に受け入れられる適切な性能、価格等をバランスさせることで売れる商品となる。本講座では、マネジメント・ゲームを使用することで、履修者は企業経営者の立場から製品開発、販路の選択、価格の決定、人事配置、広告・調査等を実際に意思決定することで体験的にマーケティングを学ぶ。</p> <p>第1回 ガイダンス/チーム編成、マーケティング、MOT基礎復習 第3回目～：マネジメントゲーム演習 最終回 総括</p>				
成績評価の方法	出席を重視する。出席40%。講義への貢献30%、最終レポート40%				
教科書・参考書	「問題解決手法の知識」(高橋誠、日経文庫)				
担当教官(所属)	五十嵐 伸吾(ロパート・ファン/アントレプレナーシップ・センター) TEL:092-642-4011 Mailto: igarashi@qrec.kyushu-u.ac.jp				
学習相談	授業前後に進行。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。				

科 目 名			
研究・技術経営論 －競争力ある研究者、技術者、リーダーになるために－		全学教育科目	
(単位数)	2 単位	高年次教養科目	課題科目Ⅱ(研究と技術のマネジメント)
		大学院共通教育科目	研究・技術経営論 －競争力ある研究者、技術者、リーダーになるために－
		QBS科目	
授業方式	外部講師からの講義70~80%程度、質疑または討論30~20%程度の割合で構成し、可能な限り双方向のクラス運営を目指す。各回終了後レポートを課す。複数のキャンパスを結び遠隔授業を行う。		
開講学期及び開講地区等	金曜4~5時限(2コマ連続)、箱崎キャンパスをメインとした遠隔講義		
キーワード	市場、マネジメント、イノベーション、アントレプレナーシップ		
履修条件	なし		
授業の目的	実業界を含めた多様な経験と知識を持った講師陣が、研究マネジメント、技術マネジメントに関する講義を行って、学生に対して大学における研究の意義、目的、社会的位置づけ等を理解させる。 また技術の活用方法、実用化のありかた等を、広い視野から学ぶ機会を提供し、研究や学問への取り組み意欲の向上と目標設定、学び方の指針を与える。		
到達目標	大学(アカデミズム)の中では知り得ない広い視野、考え方方に触れさせ、現在の研究や学問の位置づけや目標、進め方を問い合わせ、有効かつ効率的に学ぶ契機を与える。また今後の進路選択への有効な示唆を与える。 また社会に出た場合に、研究や技術をビジネスに生かすまでの基本的知識、考え方のヒントを与える。		
授業計画	<p>・講義はいわゆる技術マネジメント(MOT)の総合的かつ基礎的講義であり、大学内外で活躍する実業経験のある複数の外部講師*が、毎回講義形式にて専門分野の見識を教授する。同時にディスカッションを多く取り入れて可能な限り双方向の授業を目指す。</p> <p>・講義回数は8回、180分/回(後期前半8週間)</p> <p>・10月7日が第一回目。各回、90分の授業を休憩を挟み2コマ連続して行う(計180分)。</p> <p>・なお本講義は社会人の聴講を認める(事前登録制)。</p> <p>*(参考)2010年度の講師例: 谷川徹:九州大学産学連携センター教授、妹尾堅一郎氏:NPO法人産学連携推進機構理事長、東京大学特任授、安藤晴彦氏:内閣府参事官(知的財産戦略推進担当)、石川浩氏:持田製薬(株)知的財産部長、郡高秀氏:(株)グリーンペプタイド代表取締役社長(元協和発酵キリン(株))、水口啓氏:九州ベンチャーパートナーズ(株)代表取締役社長、畠中元秀氏:takram社共同創業者兼デザインエンジニア、小野寺トモ氏:INFINITO Labo.代表、此本臣吾氏:(株)野村総合研究所常務執行役員/コンサルティング本部長、丸山宏氏:キヤノン(株)デジタルプラットフォーム開発本部副本部長(元日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所長)</p>		
成績評価の方法	出席50%、レポート(各回提出)30%、授業での積極性20%		
教科書・参考書	各講師が各授業において提示する。		
担当教官(所属)	谷川 徹(産学連携センター/QREC) TEL:092-642-4360 mailto:tanigawa@astec.kyushu-u.ac.jp		
学習相談	随時受け付ける		

科 目 名					
アイデア・ラボⅡ (単位数)	全学教育科目	アイデア・ラボⅡ			
	高年次教養科目				
	大学院共通教育科目	アイデア・ラボⅡ(特論)			
	QBS科目				
授業方式	2コマ連続講義。身近な具体的な課題を提示し、それに対する観察力を高め、グループ演習を通じて、発散・収束・選択・実行・評価のルーチンを繰り返す演習を行う。講義の2回程度は外部講師を招聘し、より現実的な課題に取り組む。				
開講学期及び開講地区等	後期集中(後半:水曜5,6限目)、伊都キャンパスをメインとした遠隔講義				
キーワード	アントレプレナーシップ、発想力、創造力				
履修条件	'アイデア・ラボⅠ'、「アントレプレナーシップ機会発見」が原則履修済。				
授業の目的	'アイデアラボⅠ'では発想法を「アントレプレナーシップ機会発見」では社会変化の気付きを学ぶ。本講義では、具体的な課題に対する解決策を検討する上での問題解決法を学ぶ。				
到達目標	アイデア・ラボⅠに引き続き、発散的思考法・収束的技法を習得する。特に、常識にとらわれない観察力、発想力を磨くとともに、具体的な課題の評価軸の設定法を習得する。				
授業計画	後期毎週水曜日日5,6時限目毎回2コマ連続開講(2コマ×8回後期期後半のみ開講) たくさんのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初の段階で数多くのアイデアが創出できなければ、期待する成果は得られないかも知れない。本講義では身近な材料を用いながら、その使用法、活用法をいかに短時間で多くのアイデアを創出するかの演習を行う。特に「アイデア・ラボⅡ」ではより具体的な課題を対象とする。 第1回 ガイダンス/チーム編成 第2回 問題解決法:発散法と集約法(第1回と同日開講) 第3回目～16回:アイデア創出演習(2コマ×7回)				
成績評価の方法	出席を重視する。出席40%。講義への貢献30%、最終レポート40%				
教科書・参考書	「問題解決手法の知識」(高橋誠、日経文庫)				
担当教官(所属)	五十嵐 伸吾(ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター) TEL:092-642-4011 mailto: igarashi@qrec.kyushu-u.ac.jp				
学習相談	授業前後に進行。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。				

科 目 名			
ビジネスにおける競争優位性 (単位数)	全学教育科目		
	高年次教養科目	課題科目Ⅲ(ビジネスにおける競争優位性)	
	大学院共通教育科目	ビジネスにおける競争優位性(特論)	
	QBS科目	ビジネスにおける競争優位性	
授業方式	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、隔週の2コマ連続講義とする。 ・毎回の講義では、招聘講師によるスピーチを行う。その内容をふまえてグループ・ディスカッションと発表を行い、最後に全体討議を行う。 ・毎回、事前課題として次回招聘講師のスピーチに関連する事例分析を課す。 		
開講学期及び開講地区等	後期(月曜6,7限連続開講)、隔週開講、博多駅サテライト		
キーワード	競争優位、コア・コンピタンス、参入障壁、MOT		
履修条件	関連するQREC科目(アントレプレナーシップ・マネジメントⅠ・Ⅱ、テクノロジー・マーケティングⅠ・Ⅱ)を履修済みであることが望ましい。		
授業の目的	経営において競争優位の源泉となる中核的な能力や資源に着目し、その形成や活用の手法を学ぶ。		
到達目標	個別事例の分析を通じて、競争優位性の形成過程や活用手法にかんする理解を深める。		
授業計画	<p>本講義では、他社に真似できない競争優位の源泉となる中核的な能力や資源(コア・コンピタンスとも呼ばれる)に着目し、技術経営(MOT)におけるそれら能力や資源の形成および活用の手法を学ぶ。下記計画は、講師日程により変更されることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～3回 コア技術戦略(1) 第4～5回 コア技術戦略(2) 第6～7回 知的財産戦略 第8～9回 アライアンス 第10～11回 産学官連携 第12～13回 技術標準 第14～15回 俊敏性と先発優位</p>		
成績評価の方法	事前課題への対応(30%)、講義やディスカッションへの貢献(50%)、期末レポート(20%)		
教科書・参考書	特に指定しない。必要な資料等は都度配布する。		
担当教官(所属)	高田 仁(経済学研究院) TEL:092-642-4449 Mailto: mtakata@en.kyushu-u.ac.jp		
学習相談			

科 目 名			
アントレプレナーシップ・ファイナンス (単位数)	全学教育科目		
	高年次教養科目	課題科目 I (アントレプレナーシップ・ファイナンス)	
	大学院共通教育科目	アントレプレナーシップ・ファイナンス(特論)	
	QBS科目		
授業方式	各授業回でのテーマに沿う形で指定の教科書、資料やケース(事例集)を課題として課す。その上で講義に出席し、討論に参加すること。またケース教材を用いその事例から抽出できる理論面の検討をクラスで行います。		
開講学期及び開講地区等	後期(土曜日集中講義)、箱崎キャンパス(創造パビリオン)		
キーワード	アントレプレナーシップ、資金調達、バリュエーション		
履修条件	アントレプレナーシップ・マネジメント I 及び II を履修済であることが望ましい		
授業の目的	アントレプレナーシップ・ファイナンス及びファンドの理論の習得		
到達目標	ベンチャーキャピタル(VC)を中心とする資金の出し手の投資行動を理解し資金調達法を習得する。その前提としてVCが運用する投資ファンドの設立・運用方法を習得する。		
授業計画	(開講時に提示する)		
成績評価の方法	講義への貢献、レポート等より総合的に判断する(詳細はガイダンス時に提示する)		
教科書・参考書	リチャード・L・スマス、ジャネット・K・スマス「アントレプレナー・ファイナンス～ベンチャー企業の価値評価とデール・ストラクチャー」(中央経済社)。マイケル・J・コーバー「プライベート・エクイティ～価値創造の投資手法」(東洋経済新報社)		
担当教官(所属)	東出 浩教(早稲田大学ビジネススクール) TEL:092-642-4014(QREC事務室) Mailto: hiro@waseda.jp		
学習相談	授業日の授業前2~3時間、または個別のアポイントメント		

科 目 名			
地域政策デザイン論	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目	地域政策デザイン論	
(単位数)	4 単位	QBS科目	
授業方式	社会人受講生とともに各界で活躍中の有識者、専門家、現場経営者などからテーマに沿った講演を聞き、講師とのディスカッション、集中討議、政策提言に向けた作業に参加する。		
開講学期及び開講地区等	後期 土曜日14:00～17:30、博多駅サテライトキャンパスを原則とするが、例外はシラバスシステムで確認されたい。		
キーワード	企画立案 自立 地域マネジメント TPP 強い農業 森林保全 環境 アジア		
履修条件	事前(9月初旬)に行うガイダンスに必ず参加すること。(多数の場合は選抜。)		
授業の目的	様々な政策課題の解決にあたり、中央に頼ることなく地域が自ら将来像を描き、その実現のための方策を自分で企画立案できる能力を持つことが今後極めて重要となる。 授業では具体的な政策テーマについて、現場のニーズをくみ取りながら現行制度の枠組みにとらわれず新たな発想で制度を組み立て、自分で政策を立案するプロセスを実体験する。		
到達目標	具体的な政策課題(今回は、農林業の将来ビジョンと九州の成長戦略を取り上げる。)について、課題解決のための実践的な方策を見出し、政策提言として取りまとめる過程で、政策の企画立案能力と実践的応用力を身につけることを目標とする。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 全体オリエンテーション(合宿) 第3回～12回 講義・演習 (JR博多シティ会議室など) 第13回 政策提言発表シンポジウム 講義・演習は9月から1月にかけて原則土曜日午後、博多駅サテライトキャンパスにおいて2コマの授業を行うほか、フィールドワーク、合宿、終日の演習等を含む。</p> <p>講師や日程の詳細・変更はシラバスシステムに掲載する。</p> <p>なお本授業は、QREC提供科目であり、「アントレプレナーシップ入門」「アントレプレナーシップ・マネジメントⅠ／Ⅱ」「テクノロジー・マーケティングⅠ」を履修しておくことが望ましい。</p>		
成績評価の方法	積極的参加(40%)レポート(60%)		
教科書・参考書	必要な資料・文献はその都度紹介		
担当教官(所属)	谷口博文、古川勝彦(産学連携センター) TEL:092-642-3967 Mailto: hiro-taniguchi@astec.kyushu-u.ac.jp		
学習相談	メールや面談等で隨時行う。		

QBS 提供科目

科 目 名			
ベンチャー企業 (単位数)	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
	QBS科目	ベンチャー企業	
授業方式	1. 講義は、原則「マネジメント演習Ⅰ」と交互に隔週2コマ連続講義とする。 2. 講義でのディスカッションの密度を高めるために、事前学習(分量は極力抑える)を求める。 3. 理論・ケース・スタディーを中心的に、ディスカッション中心の双方向型で講義を進める。 4. 全15回の講義のうち、2回程度はベンチャー経営者等をゲストとして招聘する予定。 5. 6月10日は、国際学会参加のため休講。補講の日程は別途、調整の上、連絡する。		
開講学期及び開講地区等	(前期)博多駅、隔週開講		
キーワード	アントレプレナーシップ、起業家精神、ベンチャービジネス、社内ベンチャー、ベンチャーファイナンス		
履修条件	最大5名まで。必須とはしないが「企業財務」、「組織論」、「戦略論」、「イノベーション・マネジメント」、「ガバナンス」、「M&A」の履修を勧める。		
授業の目的	ベンチャーに「成功の定石」は無い。個々の状況に即した最善の意思決定を行い、行動できる能力の向上を目指す		
到達目標	ビジネスアイデアの発案、スクーリーニングからベンチャーファイナンス、組織化のプロセスの全体像の理解。 事例研究による疑似体験。		
授業計画	<p>Schumpeter(1912)は、新規に創業した独立系の企業(ベンチャー企業)にイノベーションの担い手との役割を与えた。</p> <p>それ以降、ベンチャー企業は、既存企業に対して競争圧力としてはたらき、市場効率化を促進する役割を果たすイノベーションの源泉の一つと考えられている。</p> <p>現実にインテル、マイクロソフトに代表されるように成功したベンチャー企業は、世界的企業に成長を遂げたばかりではなく、一国の経済・産業をリードする存在になっている。</p> <p>一方、近年、「ベンチャー」を社内に取り組み、企業内イノベーションの実現、あるいは、企業カルチャーの変革の方策として採用する企業も増えてきている(一般に、「コーポレート・ベンチャリング」と称される)。</p> <p>本講義では、「少ない経営資源で如何に事業を立ち上げるか」について討議することによって、新規事業の立ち上げに際するマネジメント能力の向上を目指す。</p>		
成績評価の方法	出席30% …出席と講義への貢献をカウントする。 事前レポート30% …講義の事前準備としてレポート(A4 2枚程度)の2、3回の提出をカウントする。 レポート40%…最終レポートを試験に代替する。(試験は行わない)		
教科書・参考書	適宜、論文・資料等を配布する。講義全体の参考図書としては下記2冊を推薦する。 ジエフリー・A・ティモンズ『ベンチャー創造の理論と実践』ダイヤモンド社、1997 田路則子、露木恵美子編著『ハイテクスタートアップの経営戦略』東洋経済新報社、2010		
担当教官(所属)	五十嵐 伸吾(九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター)		
学習相談			

科 目 名			
産学連携マネジメント (単位数)	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
	QBS科目	2 単位	産学連携マネジメント
授業方式	全15回の講義の前半では、知財や技術移転、共同研究、大学発ベンチャーと利益相反マネジメントなど、産学連携に関する基礎知識を習得する。の中には、具体的なケースを題材としたディスカッションを含む。後半では、『産学官連携で新規事業を立ち上げる!』と題した演習を行い、グループワークによって基礎段階の技術の目利き、商業化のための産学連携スキームの構築、契約条件の検討、契約交渉の演習等を行い、実務への応用力を修得する。なお、途中でゲストスピーカーによる特別講義を行う場合がある。		
開講学期及び開講地区等	(後期)箱崎		
キーワード	技術経営(MOT)、産学連携、技術移転、知的財産		
履修条件	最大10名まで。理系のバックグラウンドは必須ではない。		
授業の目的	産学連携を体系的に理解しつつ、実践可能な各種スキルを獲得する。		
到達目標	様々な産学連携の局面においてwin-winを実現するマネジメント手法について学ぶ。		
授業計画	知識経済では、企業にとって事業開発・技術開発の過程で自前主義に固執することなく、外部とのアライアンスを選択肢に持つことは重要戦略のひとつである。このとき、企業間のアライアンスのみならず、大学や公的研究機関との連携によって目的を達成することを戦略の中心に据えることも想定される。翻って大学においては、研究成果の社会普及がミッションのひとつに位置づけられ、各所で産学連携への取り組みが活発化している。本講義では、近年注目を集めている産学連携の目的や意義・効果などについて学ぶと共に、知財のライセンス契約や共同研究契約、ベンチャーを活用した事業化など、win-winの産学連携をマネジメントできる実践的スキルを修得する。講義では、国内外の具体的な事例を取り上げながら、萌芽的段階にある技術を評価し企業への導入を図る際のポイントを理解するとともに、実務家に求められる知財やライセンス契約・共同研究契約等の実践的知識の獲得や、各種情報収集方法、産学連携スキームの構築手法、利益相反に配慮したプロジェクトのマネジメント手法などを習得する。これら一連の学習を通じ、産学連携を成功に導くスキル修得を目指す。本講義は、外部技術の導入によって事業化を図る民間企業の経営者やプロジェクト・マネージャー、大学やTLO等のライセンスアソシエイトやコーディネーター、地域の産学官連携を支援する行政マン、あるいは大学発ベンチャーの立ち上げに関わる起業家を志す者を主たる対象とする。		
成績評価の方法	予習(①授業内容の把握、②問題意識のレベル) → 20% 授業参加(①積極的な授業参加(発言)、②ディスカッションポイントの把握と対応力) → 50% 学期末レポート → 30%		
教科書・参考書	・理工系のための特許、技術移転入門(隅藏 康一 他著、2003年、岩波書店) ・TLOとライセンスアソシエイト(渡部 俊也、隅藏 康一 著、2002年、株式会社BKC)		
担当教官(所属)	高田 仁(九州大学 経済学研究院)		
学習相談			

科 目 名			
アジアの産業と企業 Asian Industry and Companies (Economics of Technological Innovation and Entrepreneurship)	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
	QBS科目	アジアの産業と企業	
(単位数)	2 単位		
授業方式	The objective of this course is to offer an overview of technological change perspectives for those who are involved (or interested) in new technology creation activities. The course mainly comprise of lectures (led by the instructor) and case studies supplied by the videos.		
開講学期及び開講地区等	後期(博多駅)		
キーワード	The mechanisms of technological innovation, technology-intensive industry		
履修条件	・英語でディスカッションできること ・最大6名まで		
授業の目的	This course focuses on the particular economics of new and established business in technology-intensive industry.		
到達目標	Understand the frameworks for analyzing key aspect of the technology-intensive industry.		
授業計画	<p>The objective of this course is to offer an overview of technological change perspectives for those who are involved (or interested) in new technology creation activities. The course mainly comprise of lectures (led by the instructor) and case studies supplied by the videos.</p> <p>The cases are selected from a board and global view not only focusing on Asian countries, but also address the most important technological issues in the 20th century. Since the purpose of the course is to provide frameworks in analyzing the basic issues of economic change and business decision making across nations, this requires the participants to have a high understanding with respect to “why and under what circumstances” behind the various phenomena, but not just to narrow theirs concerns on the particular areas with superficial questions of “what is happening”.</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> • Participation (25%): Participation marks will depend on in-class participation as well as the individual's contribution to the class discussion. • Final Report (50%): The report will be evaluated on the quality of the analysis frameworks which are provided and taught on the class. • Presentation (25%): All the participants will be required to present their final report in a basic version on the class. 		
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> • Shane, S. 2005, Finding Fertile Ground: Identifying Extraordinary Opportunities for New Ventures, Upper Saddle River, NJ: Wharton School Publishing. • Shane, S. 2007, The Illusions of Entrepreneurship: The Costly Myths That Entrepreneurs, Investors, and Policy Makers Live By, Yale University Press. • Shane, S. 2008, Technology Strategy Management for Managers and Entrepreneurs, Wharton School Publishing. 		
担当教官(所属)	朱 穎(九州大学 経済学研究院)		
学習相談			

科 目 名			
知的財産管理	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
	QBS科目	知的財産管理	
(単位数)	2 単位		
授業方式	講義を主体とし、演習(宿題)を以って補足とする。 できるだけ実例に即した講義・演習内容とし、講義・演習中にも質問と討議を多用する。		
開講学期及び開講地区等	(前期)箱崎		
キーワード	知的財産、特許、商標、著作権、営業秘密、ライセンス、技術、MOT。		
履修条件	MOT関連の基礎科目。		
授業の目的	初心者に対し、知的財産の基礎知識並びに今後自ら考えるための土台を体系的、論理的かつ体験的に習得させる。		
到達目標	知的財産の用語の定義、基礎知識、実務知識等の習得。 国内、国外の知的財産状況、企業知財マネジメントの理解。		
授業計画	先ず、知的財産に関する基礎(6回)として、知的財産の種類、用語の定義、知的財産の歴史と最近の動向、知的財産権の法的保護、なかんづく特許に関する国内及び外国の制度について概説する。 次に、知的財産に関する実務(6回)として、知的財産の創造、保護、活用と言われる企業の知的財産業務内容を解説する。特に、特許権利範囲の問題や特許権の行使について議論を深める。 更に、知的財産に関する応用(3回)として、企業の知的財産マネジメント及び研究開発・知的財産戦略、知的財産をめぐる内外の動向、アジアにおける知的財産問題、模倣品対策などについて説明し、検討を行う。 また、この間適当な時期に、5項目の宿題に対するレポート提出とそれを用いた各人の発表、討議(5回)を行い、知的財産に対する理解を深めると同時に論文発表技術も習得する。		
成績評価の方法	出席率 40点 レポート或いは講義・演習中の理解度 60点		
教科書・参考書	佐伯とも子、京本直樹、田中義敏; 知的財産 基礎と活用、朝倉書店。 竹田和彦; 特許の知識(第7版)理論と実際、ダイヤモンド社。 特許庁; 産業財産権標準テキスト 特許編、商標編、意匠編、流通編。		
担当教官(所属)	吉田 基樹(九州大学 経済学研究院)		
学習相談			

科 目 名			
生産管理 (単位数)	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
	QBS科目	生産管理	
授業方式	講義が半分、宿題に伴う意見発表と討論が半分。		
開講学期及び開講地区等	(後期)箱崎		
キーワード	技術経営(MOT)、生産管理、技術革新		
履修条件	なし		
授業の目的	物造りの歴史を繙く中で先覚者が持つ開拓精神の抽出を試み、その過程で生産、技術センスを磨く。		
到達目標	生産管理論の歴史。生産管理の基本的考え方。技術革新と企業化の歴史。最先端の技術と生産。		
授業計画	<p>[1] 生産管理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生産管理論の歴史概観 ② 生産管理に関する理論 <ul style="list-style-type: none"> イ) 生産管理論の現状 ロ) アーキテクチャによるもの造り論(藤本隆宏) ハ) 生産システムの考え方…設計・開発、製造、調達システム ニ) もの造り現場の生産管理、技術・技能の伝承、生産平準化 <p>[2] 生産・技術革新史の事例研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 日本における近代工業社会の成立ち ② ベンチャー或は产学協同の嚆矢である理化学研究所と大河内正敏博士 ③ 戦後の革新的企業家・西山弥太郎の挑戦 ④ 生産工程と工場レイアウト、生産設備のあり方 <p>[3] 最先端の生産と技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ミクロ技術…結晶、ナノ ② マクロ技術…ジェット・エンジンと航空機における最新の設計・開発、製造システム ③ 陸・海・空物流と輸送システム 		
成績評価の方法	出席率40点、宿題に伴うレポート、期末試験又は期末レポート結果60点。		
教科書・参考書	参考文献を記した講義ノート及び参考資料を隨時配布。		
担当教官(所属)	吉田 基樹(九州大学 経済学研究院)		
学習相談			

科 目 名			
イノベーション・マネジメント	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
	QBS科目	イノベーション・マネジメント	
(単位数)	2 単位		
授業方式	講義を中心とし、リーディング・アサインメントないしケース教材に関連するディスカッションを行う。また、各自イノベーションの成立要因に関する事例分析を行い、レポートにまとめて提出することとする。		
開講学期及び開講地区等	(前期)博多駅		
キーワード	イノベーション、革新、技術進歩、持続的競争優位、研究開発、製品開発		
履修条件	最大5名まで。		
授業の目的	イノベーションを通じた持続的競争優位の構築に不可欠な知識を習得する。		
到達目標	各回の講義において取り上げられるコンセプトを、具体的な事例に即して理解する。		
授業計画	<p>イノベーションとは、最も伝統的な定義にしたがえば、経済発展の原動力となる諸資源の新結合である。労働および資本ストックという生産要素の投入による成長が限界に直面している今日、持続的な成長を追求する企業にとってイノベーションの創出への組織的な取り組みは不可避の課題となっている。本講義では、イノベーションのマネジメントに要する基礎知識並びに問題発見・解決能力を習得することによって、成長戦略の立案に不可欠な素養を得ることを目的とする。</p> <p>イノベーションには多様な類型があるが、本講義では主として技術的イノベーション(新製品の開発および新工程の導入)を取り上げ、その発生のメカニズムをミクロな視点に立って解明するとともに、イノベーションを促進するための組織構造の特質と戦略の枠組みについて検討する。また、企業が自ら行ったイノベーションから利益を獲得するための条件と、それを規定するマクロな政策的・制度的要因について議論する。この過程で、経営学および経済学の領域において提示してきた理論を包括的にレビューし、ケーススタディを通じて、その実践的な含意に対する理解を深める。</p>		
成績評価の方法	ディスカッションへの貢献度、講義中に理解度を確認するために行う小テストの結果、および事例分析の完成度により評価する。なお、4回以上の欠席は不可とする。		
教科書・参考書	<p>教科書: 必読論文を配布する。 参考図書: ・一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門』、日本経済新聞社2001. ・永田晃也編著『価値創造システムとしての企業』学文社、2003. ・R.A.Burgelman, et al., Strategic Management of Technology and Innovation, McGraw-Hill, 2004.(青島矢一他訳『技術とイノベーションの戦略的マネジメント(上)(下)』翔泳社、2007.)</p>		
担当教官(所属)	永田 晃也(九州大学 経済学研究院)		
学習相談			

科 目 名					
知識マネジメント (単位数)	全学教育科目				
	高年次教養科目				
	大学院共通教育科目				
	QBS科目	知識マネジメント			
授業方式	講義とケース討論を中心とする。また、課題として任意の組織を取り上げ、その組織におけるナレッジ・マネジメントの導入に関する提案書を作成する。提案書の内容については、レポートとして提出するとともに、第13回～第15回の間にプレゼンテーションを行うこととする。				
開講学期及び開講地区等	(後期)博多駅				
キーワード	組織的知識創造、SECIモデル、ナレッジ・マネジメント、知識資産				
履修条件	最大5名まで。「イノベーション・マネジメント」を履修しておくことが望ましい。				
授業の目的	知識を経営資源として創造、活用、蓄積するための戦略の枠組みを習得する。				
到達目標	各回の講義において取り上げられるコンセプトを、具体的な事例に即して理解する。				
授業計画	<p>本講義は、技術を組織的な知識として捉え直す視点から、その経営資源としての特質を理解するとともに、知識の創造、活用および蓄積に関する経営戦略の枠組みを習得することを目的とする。</p> <p>資本ストックや労働などの生産投入要素の拡大による成長が限界に達した現在、我々は、知識が最も重要な資源となる「知識社会」の到来に直面している。これに伴い、近年の組織論の研究領域では、組織を情報処理システムとして見る伝統的なパラダイムを超えて、知識を創造する主体として組織を捉える新たな理論が提唱されている。また、個人の知識を組織的に共有・活用しながら知識を創造する手法の体系化を目指す「ナレッジ・マネジメント」が、急速に普及してきた。</p> <p>本講義では、上記の理論と経営手法を包括的に取り上げ、両者の関連における問題点に言及する。その際、ナレッジ・マネジメントの表層的な流行現象に追随することなく、その背後にある経営課題の本質と、実践的な解決の指針を探求する。</p>				
成績評価の方法	ディスカッションへの貢献度、ケース分析シートの完成度および課題に関するレポートとプレゼンテーションの評価による。 なお、4回以上の欠席は不可とする。				
教科書・参考書	参考図書 ・野中郁次郎、竹内弘高(梅本勝博訳)『知識創造企業』東洋経済新報社、1996年 ・T. H. Davenport and L. Prusak, Working Knowledge, Harvard, 1998(梅本勝博訳『ワーキング・ナレッジ』生産性出版、2000年) ・杉山公造、永田晃也、下嶋篤、梅本勝博、橋本敬編著『ナレッジサイエンス(改訂増補版)』近代科学社、2008年 ・野中郁次郎、泉田裕彦、永田晃也編著『知識国家論序説』東洋経済新報社、2003年 ・永田晃也編著『価値創造システムとしての企業』学文社、2003年 ・S. Fuller, Knowledge Management Foundations, Butterworth-Heinemann, 2002(永田晃也他訳『ナレッジマネジメントの思想』新曜社、2009年)他				
担当教官(所属)	永田 晃也(九州大学 経済学研究院)				
学習相談					

科 目 名			
産業と政策		全学教育科目	
		高年次教養科目	
		大学院共通教育科目	
(単位数)	2 単位	QBS科目	産業と政策
授業方式	基礎理論に関する講義の後、受講者自身が選択した個別産業分野の規制枠組みや産業構造等に関して報告を行い、政策の適合性、企業の最適な対応をめぐり質疑・討論を行う。受講者にはテキストを読解するだけでなく、自ら調査を行い、分析を行うことが要求される。(以上はあくまでも現時点での予定であり、詳細は第1回目の講義時に決定する。)		
開講学期及び開講地区等	(後期)博多駅		
キーワード	産業政策、市場の失敗、政府の失敗、規制、規制緩和		
履修条件	なし		
授業の目的	政府の市場介入をめぐる経済理論を学習し、現実の政策展開と市場へのインパクトを理解・分析する力を習得する。		
到達目標	政策介入の基礎理論を理解するとともに、政策インパクトを分析する力を身につける。		
授業計画	<p>わが国経済は市場メカニズムを基本として運営されているが、市場構造 자체の形成には政府の政策が色濃く反映されているケースが多い。公益性を有する産業や、消費者に対するインパクトが大きいと考えられる産業の場合、通常であれば個別企業の意志決定の範疇に属する項目が政府によって決定される場合がある。</p> <p>産業振興、産業再編、企業育成などを目的とした政府の市場介入は枚挙に暇がない。 本講義では、「産業政策」の経済理論を概観し、現実の政策展開とそれが市場に及ぼすインパクトを客観的に分析する知見の獲得を目指す。</p>		
成績評価の方法	出席・討論への参加 30% プレゼンテーション・課題レポート 70%		
教科書・参考書	教科書: 『通信産業の経済学』(実積寿也 九州大学出版会)『新経済学ライブラリ8 公共経済学 第2版』(常木淳 新世社) 参考図書 『産業政策の経済分析』(伊藤元重ほか 東京大学出版会)『ミクロ経済学入門[第2版]』(西村和雄 岩波書店) 『公共経済学入門』(西垣泰幸【編著】八千代出版)『競争政策論 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論』(小田切宏之 日本評論社)		
担当教官(所属)	実積 寿也(九州大学 経済学研究院)		
学習相談			

科 目 名			
産業と技術	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
(単位数)	2 単位	QBS科目	産業と技術
授業方式	テキストを輪読します。各章ごとに報告者をきめ、報告者が作成した各章の要約と報告者のコメントをもとにして、討論します。課外授業により受講者の懇親をはかり、討論の活性化を促進します。		
開講学期及び開講地区等	(前期)博多駅		
キーワード	イノベーション		
履修条件	最大10名まで。テキストの購入		
授業の目的	イノベーション・マネジメントについて多面的角度から概括的な知識を持つ。		
到達目標	プロジェクト演習のテーマ選定及びMOTの基礎知識修得。		
授業計画	<p>イノベーションを持続できる経営について学ぶ。テキストの著者たちは、「イノベーションを成功させるための簡単なレシピなど存在しない」が、「根底にある成功のパターンを見つけることは可能である」というスタンスをとる。イノベーションを実現する標準的な解決策は存在しないから、自分自身で特殊解を見つけださなければならないが、応用することはできる一般的な対処法はある、というスタンスである。テキストを通してイノベーションをキーワードに、技術、市場、組織が具体的に論じられる。著者たちは3人ともイギリス人であり、事例はヨーロッパのものも、また日本もあり、アメリカ一辺倒ではない。</p> <p>本授業は参加者がつくっていく授業です。授業ではテキストに関連して、相互の経験や、関連する業界事例などを出し合い、討論で深めていきます。その意味では通常の講義と同じような受身の姿勢では、授業としての魅力はとぼしくなりますので、参加者の積極的発言を望みます。</p>		
成績評価の方法	出席(40%)、報告書(30%)、討論への参加状況(30%)で、総合評価する。		
教科書・参考書	ジョー・ティッド/ジョン・ベサント/キース・パビット『イノベーションの経営学—技術・市場・組織の統合的マネジメント』NTT出版、2004年 (Joe Tidd, John Bessant and Keith Pavitt, Managing Innovation: Integrating Technological, Market and Organizational Change, John Wiley & Sons, Ltd., 2001)。		
担当教官(所属)	久野 国夫(九州大学 経済学研究院)		
学習相談			

科 目 名			
研究開発マネジメント (社会の変化に対応したモノづくりビジネスと 研究開発マネジメント)	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
	QBS科目	研究開発マネジメント	
(単位数)	2 単位		
授業方式	・次の講義内容のアウトラインを事前配布するので、各自の考えをまとめておくこと ・講義形式で進めるが、適宜出席者の意見を交えた議論を行う。 各自の意見の発表は口頭、資料配布、ppt発表も可		
開講学期及び開講地区等	(前期)博多駅		
キーワード	MOT、モノづくり、社会ニーズ、エネルギーと環境問題への対応、競争戦略、研究開発マネジメント		
履修条件	最大10名まで。		
授業の目的	・社会ニーズの変化に対応したモノづくりビジネスの理解 ・企業戦略と実際の研究開発体制／マネジメントプロセスの理解		
到達目標	・エネルギー・環境問題を解決するモノづくり ・新製品の開発事例をビジネスモデル設定／投資判断／開発経緯／技術リスクの克服／投資回収の観点から理解		
授業計画	1. 序論 & モノづくりと研究開発マネジメント(メインテナンスビジネスや航空機産業の例) 2. 社会ニーズに対応したモノづくりビジネスの例 ・エネルギー・地球環境問題に関連したビジネスチャンス・各自の意見発表(ビジネス企画) 3. モノづくりビジネス発展の歴史と研究開発 ・企業の研究開発の歴史と発展戦略・各自の意見発表 4. モノづくりビジネスにおける研究開発マネジメントプロセス ・各企業の研究開発体制・各自の意見発表 5. 研究から製品開発までの実例と討議 ・薄膜型大面積太陽電池 ・夜間でも遠距離画像認識が可能なレーザーレーダー		
成績評価の方法	・3回レポート提出：講義トピックスに対する自分の理解や所見、調査結果など ・授業の中での自分の意見発表／討議 ⇒ 上記2項目で成績評価する		
教科書・参考書	・講義資料はその都度コピー配布 ・参考web siteやケーススタディ資料は初回講義時に示す		
担当教官(所属)	太田 和秀(九州大学 工学研究院)		
学習相談			

科 目 名			
プロジェクト・マネジメント (単位数)	全学教育科目		
	高年次教養科目		
	大学院共通教育科目		
	QBS科目	プロジェクト・マネジメント	
授業方式	「本科目は2限連続での開講を基本とし、理論と実践ケースを組み合わせる」 「ゲスト講師によるスピーチとディスカッションを適宜盛り込むので、受講者の積極的な発言が奨励される」 「プロジェクトの失敗要因を学習しながら、プロジェクトにおける課題・問題解決のノウハウを蓄積する」 「事業戦略とプロジェクトの要件定義をかみ合わせ、プロジェクト立ち上げと実行計画における要諦を習得し、PMBOK+BABOKによるプロマネ最前线の知識を得る」		
開講学期及び開講地区等	(後期)箱崎		
キーワード	プロジェクト・マネジメント、PMBOK、成功要因(KSF)、プロジェクト計画、WBS、ファシリテーション		
履修条件	最大10名まで。講義と演習の両方を通して出席できる者。演習・グループ討議への積極的参加が必須。		
授業の目的	プロジェクト・マネジメントに関する概要・基礎を習得し、実践者ケースを通じて、応用・実践管理技術を習得する。		
到達目標	座学と実践ケースを通じて管理技術の視点・論点を養いながら、受講者自身がプロマネ実践のテーマを見出す。		
授業計画	グローバル化の加速で、企業・社会を取り巻くビジネス環境が複雑化しているなかで、プロジェクトを成功に導く理論とエッセンスを、グローバルスタンダード『PMBOK』と業界関連記事を解説し、プロジェクト・マネジメントの知識体系を講述する。 また3回目以降、実業界から専門講師を4名招き、PMBOK演習及びプロマネ実践の成功例や失敗例、その対処法・実践ノウハウについて実践ケースを学習する。 そして理論と実践ノウハウの両面からプロジェクト・マネジメント知識全般を習得し、実務応用への助言・指導を行う。		
成績評価の方法	出席30% …出席と事前学習レポート(A4 1枚程度)の提出をカウントする。 講義30% …演習でのプレゼンテーション、ディスカッション等、講義へ積極参加を評価する。 レポート40%…最終レポートを試験に代替する。		
教科書・参考書	講義資料は当日配布、ケース討議資料は事前配布。 「プロジェクトチームの作り方と実践の方法」西村克己教授 中経出版 日経SYSTEMS/COMPUTERプロマネ関連記事、プロジェクトマネジメント学会誌		
担当教官(所属)	大津留 榮佐久(九州大学 客員教授)		
学習相談			